



## stcli コマンド

---



**重要** stcli コマンドは廃止になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

---

- [stcli コマンド \(1 ページ\)](#)
- [stcli appliance コマンド \(4 ページ\)](#)
- [stcli cluster コマンド \(9 ページ\)](#)
- [stcli datastore コマンド \(30 ページ\)](#)
- [stcli disk コマンド \(35 ページ\)](#)
- [stcli dp \(data protection\) コマンド \(37 ページ\)](#)
- [stcli license コマンド \(78 ページ\)](#)
- [stcli node コマンド \(82 ページ\)](#)
- [stcli security コマンド \(94 ページ\)](#)
- [stcli services コマンド \(101 ページ\)](#)
- [stcli vm clone および snapshot コマンド \(123 ページ\)](#)

## stcli コマンド

### stcli コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

---

HX Data Platform コマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドは、すべて **stcli** で始まります。

```
stcli [-h] {about | services | vm | dp | snapshot-schedule | cluster | appliance | node | disk | datastore | file | security | license }
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>about</b>	いずれか1つが必須。	コントローラ VM サービスであるストレージマネージャ (stMgr) に関する情報。
	<b>appliance</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ アプライアンス名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>cluster</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>datastore</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストア名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>disk</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ディスク名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>file</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ VM ファイル名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>license</b>	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンス名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>node</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ノード名前空間でサポートされているコマンド。ストレージクラスタ ノードは、ハイパーバイザー ノードとストレージコントローラで構成されています。ストレージクラスタ ノードでは、ハイパーバイザー ID/IP を識別に使用します。
	<b>security</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ セキュリティ名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>services</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ システム サービス名前空間でサポートされているコマンド。
	<b>snapshot-schedule</b>	セットのいずれかが必要。	このストレージクラスタ内のすべてのオブジェクトに対するスナップショットスケジュールを有効/無効にします。
	<b>vm</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ VM 名前空間でサポートされているコマンド。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli about コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX コントローラ VM のサービスであるストレージマネージャ (stMgr) に関する情報を表示します。これは、コントローラ VM を管理するサービスです。

### stcli about

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli about コマンドを実行します。

```
# stcli about
serviceType: stMgr
instanceUuid:
name: HyperFlex StorageController
locale: English (United States)
serialNumber:
apiVersion: 0.1
modelName: X9DRT
build: 2.0.1a-19584 (master)
displayVersion: 2.0 (1a)
fullName: HyperFlex StorageController 2.0.1a
productVersion: 2.0.1a-19584
```

## stcli -help コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

すべての stcli コマンドに対するヘルプ オプション。

### stcli [COMMAND] [-h]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>-h, --help</b>	必須	指定されているコマンドに関連するヘルプメッセージを表示して終了します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli コマンドでは、位置指定のコマンドまたは引数のいずれかと `--help` オプションを指定します。

## stcli appliance コマンド

### stcli appliance コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

アプライアンス操作。

**stcli appliance [-h] {list | discover}**

#### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>list</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ内のストレージクラスタアプライアンスをリストします。
<b>discover</b>	セットのいずれかが必要。	ネットワーク内の新しいストレージクラスタアプライアンスを検出します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli appliance コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli appliance list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ内のストレージクラスタアプライアンスをリストします。

**stcli appliance list [-h]**

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli appliance list アプライアンス コマンドを実行します。

次に、切り取られた応答の例を示します。

```
# stcli appliance list
ps:
-----
status: green
name: Power Supply 1 PS1 Status: Power Supply AC lost - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2: Running/Full Power-Enabled
-----
status: green
name: Power Supply 1: Running/Full Power-Enabled
-----
status: green
name: Power Supply 1 PS1 Status: Predictive failure - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2 PS2 Status: Failure status - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2 PS2 Status: Predictive failure - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 2 PS2 Status: Power Supply AC lost - Deassert
-----
status: green
name: Power Supply 1 PS1 Status: Failure status - Deassert
-----

serialNumber:
disks:
  EntityRef(type=10, id='5000c500642d17ad:0000000000000000', name='/dev/sde'):
    status: online
    serialNumber: 9XG4XS2V
    capacity: 931.5G
    slotNumber: 1.1.4
    logicalname: /dev/sde
    modelNumber: ST91000640NS
    entityRef:
      type: pdisk
      id: 5000c500642d17ad:0000000000000000
      name: /dev/sde
      version: SN03
      vendor: Seagate
  EntityRef ...

modelNumber: X9DRT
pnics:
  EntityRef(type=3, id='00000000-0000-0000-0000-002590d423b2', name='cs-002a'):
    -----
    device: vmnic2
    mac: 90:e2:ba:54:6d:04
    pci: 0000:04:00.0
    speedMb: 10000
    -----
  ...
  EntityRef(type=3, id='00000000-0000-0000-0000-002590d42388', name='cs-002c'):
    -----
    device: vmnic0
```

```

mac: 00:25:90:d4:23:88
pci: 0000:02:00.0
speedMb: 1000
-----
...
-----
nodes:
  A:
    state: online
    upgradeState: ok
    storfsIp:
      addr: 10.104.48.24
      stService: stctl
      vlanId: 311
      gateway: 10.104.48.1
      subnetMask: 255.255.240.0
      method: static
    pNode:
      about:
        serviceType: sysmAgent
        instanceUuid: d8e6ec9a564de28a:9d870ca45456c471
        name:
        locale: en-US
        serialNumber: unset
        apiVersion: 0.0.1
        modelNumber: unset
        build: 2.0.1-release-20569
        displayVersion: 2.0(1a)
        fullName: HyperFlex StorageController-2.0.1a
        productVersion: 2.0.1a-20569
      retired: False
      compression: True
      ip: 10.104.48.24
      disks:
        -----
        blacklistCount: 0
        medium: rotational
        capacity: 931.5G
        state: ready
        version: 0
        entityRef:
          type: disk
          id: 5000c500642e0f8f:0000000000000000
        usage: persistence
        path: /dev/sdd
        lastModifiedTime: 1484715441000
        usedCapacity: 9.2G
        -----
        ...
        -----
      dedup: True
      nsPrimary: True
      dataWriteThruEnabled: True
      state: ready
      bootTime: 0
      master: False
      entityRef:
        type: pNode
        id: d8e6ec9a564de28a:9d870ca45456c471
        name: 10.104.48.24
      version: 0
      lastModifiedTime: 1484715441000
      name: 10.104.48.24

```

```
host:
  state: online
  about:
    serviceType: HostAgent
    instanceUuid: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
    name: VMware ESXi
    locale: English (United States)
    serialNumber: 0123456789
    apiVersion: 6.0
    modelNumber: X9DRT
    build: 3380124
    fullName: VMware ESXi 6.0.0 build-3380124
    productVersion: 6.0.0

stctlvm:
  name: stCtlVM-0123456789 (2)
  ip: 10.104.48.24
  guestHostname:
  mgmtClusterIp: 10.104.32.32
  storageNetworkIp: 10.104.48.24
  moid: vm-885
  role: storage
  entityRef:
    type: virtmachine
    id: vm-885
    name: stCtlVM-0123456789 (2)
  version: 2.1.1
  passthrough: pci
  guestState: running
  mgmtNetworkIp: 10.104.32.28

name: cs-002a
ip:
  addr: 10.104.32.21
  stService: hypervisor
  vlanId: 0
  gateway: 10.104.32.1
  subnetMask: 255.255.240.0
  method: static
moid: host-879
ipmiSettings:
  addr: 10.104.32.20
  stService: ipmi
  gateway: 10.104.32.1
  subnetMask: 255.255.240.0
  method: dhcp

ioVisor:
  about:
    serviceType: scvmclient
    instanceUuid:
    name: Springpath I/O Visor
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName: Springpath I/O Visor
    productVersion: 2.0.1a-20569
  state: offline

bootTime: 0
entityRef:
  type: node
  id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
  name: cs-002a
```

```

vMotionIp:
  addr: 10.104.48.20
  vlanId: 311
  gateway: 10.104.32.1
  subnetMask: 255.255.240.0
  method: static
enclosureSerialNumber:

entityRef:
  type: node
  id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
  name: cs-002a
progress:
-----
completion: 100
parent:
  type: node
  id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
  name: 10.104.48.24
name: Disk Prepare /dev/sdb
state: succeeded
entity:
  type: disk
  id: 55cd2e404b6d511e:0000000000000000
description: Ignored solid state drive /dev/sdb
-----
...
-----
upgradeVersion: 2.0.1a-20569
C:
state: online
upgradeState: ok
storfsIp:
  addr: 10.104.48.27
  stService: stctl
  vlanId: 311
  gateway: 10.104.48.1
  subnetMask: 255.255.240.0
  method: static
pNode: ...

```

## stcli appliance discover コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ネットワーク内の新しいストレージクラスタ アプライアンスを検出します。何も検出されない場合は、検索にかかった時間のみが返されます。

### stcli appliance discover [-h]

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli appliance discover コマンドを実行します。



# stcli cluster コマンド

## stcli cluster コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Data Platform ストレージ クラスタ操作。

```
stcli cluster [-h] {prepare | create | info | diag | refresh | shutdown | start | upgrade | upgrade-status
| upgrade-kernel | version | create-config | recreate | reregister | get-data-replication-factor |
get-cluster-access-policy | set-cluster-access-policy | enable-data-write-thru | disable-data-write-thru
| storage-summary | get-zone | set-zone}
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>create</b>	いずれか1つが必須。	ストレージ クラスタを作成します。名前を付け、IP アドレスで識別されるノードをいくつか指定します。
	<b>create-config</b>	セットのいずれかが必要。	設定ファイルからストレージ クラスタを作成します。
	<b>diag</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ クラスタに関する診断メッセージを提供します。
	<b>disable-data-write-thru</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ クラスタでデータのライト スルーを無効にします。
	<b>enable-data-write-thru</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ クラスタでデータのライト スルーを有効にします。
	<b>get-cluster-access-policy</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ クラスタのクラスタ アクセス ポリシーを取得します。
	<b>get-data-replication-factor</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ クラスタのデータ レプリケーション係数を取得します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>info</b>	セットのいずれかが必要。	現在設定されているストレージクラスタに関する情報を提供します。
<b>prepare</b>	セットのいずれかが必要。	IP アドレスで識別されるノードのセット用にストレージクラスタのネットワーク設定を準備します。
<b>recreate</b>	セットのいずれかが必要。	強制オプションで既存のストレージクラスタを再作成します。
<b>refresh</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのステータスを更新します。
<b>reregister</b>	セットのいずれかが必要。	vCenter 間で既存のストレージクラスタを再登録します。
<b>set-cluster-access-policy</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのクラスタアクセスポリシーを設定します。
<b>shutdown</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタをシャットダウンします。
<b>start</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタを起動します。
<b>storage-summary</b>	セットのいずれかが必要。	現在設定されているストレージクラスタについてストレージの概要を提供します。
<b>upgrade</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタをアップグレードします。
<b>upgrade-kernel</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのアップグレードカーネルに関する暫定的な情報を提供します。
<b>upgrade-status</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのアップグレードステータスに関する暫定的な情報を提供します。
<b>version</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタのバージョンに関する情報を提供します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>get-zone</b>	いずれか1つが必須	ゾーンの詳細を取得します。 Gets the zone details. このオプションは、ゾーンが有効になっているか確認するために使用されます。
<b>set-zone</b>	いずれか1つが必須	ゾーンを有効または無効にします。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli cluster コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli cluster prepare コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

IP アドレスで識別されるノードのセット用にストレージクラスタのネットワーク設定を準備します。



(注) **stcli cluster prepare** コマンドは、クラスタがまだ展開されていない場合にのみサポートされます。実行中のクラスタの自動ワークフローを使用します。



(注) これは高度なコマンドです。TAC のサポートなしで使用しないでください。

```
stcli cluster prepare [-h] [--node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]] [--config CONFIG] [--hypervisor-ips
HYPERVISORIPS [HYPERVISORIPS ...]] [--storefs-ips STORFSIPS [STORFSIPS ...]] [--ipmi-ips
IPMIIPS [IPMIIPS ...]] [--vmotion-ips VMOTIONIPS [VMOTIONIPS ...]] [--netmask NETMASK]
[--gateway GATEWAY] [--vlan VLAN] [--netmask1 NETMASK1] [--gateway1 GATEWAY1]
[--vlan1 VLAN1] [--dns DNS [DNS ...]] [--ntp NTP [NTP ...]] [--timezone TIMEZONE] [--smtp
STMPSEVER] [--fromaddress FROMADDRESS] [--dryrun]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--config CONFIG</b>	いずれか1つが必須。	ネットワーク設定ファイル。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--node-ips</b> NODEIPS [NODEIPS ...]	いずれか 1 つが必須。	設定に追加するストレージクラスタノードの IP アドレス。IP アドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
<b>--dns</b> DNS [DNS ...]	オプション。	DNS サーバの IP アドレス。IP アドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
<b>--dryrun</b>	オプション。	入力パラメータを検証するだけです。
<b>--fromaddress</b> FROMADDRESS	オプション。	自動サポート電子メールの送信元となるアドレス。
<b>--gateway</b> GATEWAY	オプション。	デフォルト ゲートウェイ。
<b>--gateway1</b> GATEWAY1	オプション。	デフォルト ゲートウェイ 1。
<b>--hypervisor-ips</b> HYPERVISORIPS [HYPERVISORIPS ...]	オプション。	適用するハイパーバイザーの IP アドレス。IP アドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
<b>--ipmi-ips</b> IPMIIPS [IPMIIPS ...]	オプション。	適用する IPMI の IP アドレス。IP アドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
<b>--netmask</b> NETMASK	オプション。	サブネット マスク。
<b>--netmask1</b> NETMASK1	オプション。	サブネット マスク 1。
<b>--ntp</b> NTP [NTP ...]	オプション。	NTP サーバの IP アドレス。サーバ ID が複数ある場合はスペースで区切ります。
<b>--smtp</b> SMTPSERVER	オプション。	SMTP サーバ。
<b>--storefs-ips</b> STORFSIPS [STORFSIPS ...]	オプション。	適用するストレージクラスタの IP アドレス。IP アドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。
<b>--timezone</b> TIMEZONE	オプション。	タイムゾーン。
<b>--vlan</b> VLAN	オプション。	VLAN タグ。
<b>--vlan1</b> VLAN1	オプション。	VLAN タグ 1。

Option	必須またはオプション	説明
<code>--vmotion-ips VMOTIONIPS [VMOTIONIPS ...]</code>	オプション。	適用する vMotion の IP アドレス。IP アドレスが複数ある場合はスペースで区切ります。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli cluster prepare` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) TAC のサポートなしでこのコマンドを使用しないでください。

## stcli cluster create コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタを作成します。名前を付け、IP アドレスで識別されるノードをいくつか指定します。



**重要** プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

```
stcli cluster create [-h] --name NAME --ip IP --mgmt-ip MGMTIP [--vcenter-datacenter
DATACENTER] [--vcenter-cluster VCENTERCLUSTER] [--vcenter-url VCENTERURL]
[--vcenter-sso-url VCENTERSSOURL] [--vcenter-user VCENTERUSER] --node-ips NODEIPS
[NODEIPS . . .] [--data-zk-ip DATAZKIP] --data-replication-factor {2 | 3} [--cluster-access-policy
{strict | lenient}] [--zone { 0 | 1}] [--vdi-only-deployment] [--clusterType {0,1,2}] [-f] [--dryrun]
[--esx-username ESXUSERNAME] [--deploymentMode {0,1}] [--managedBy {0,1}]
```

表 1: 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<code>--ip IP</code>	必須	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
<code>--mgmt-ip MGMTIP</code>	必須	ストレージクラスタ管理サーバの IP アドレス。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須	ストレージクラスタの名前。
<b>--node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]</b>	必須	ストレージクラスタに追加するすべてのコンバージドノードの IP アドレス。
<b>--vcenter-user VCENTERUSER</b>	任意	vCenter 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。
<b>--cluster-access-policy {strict, lenient}</b>	オプション。デフォルト lenient	クラスタ アクセス ポリシー (strict または lenient)。
<b>[--data-zk-ip DATAZKIP]</b>	オプション	データ ZK サーバーの IP
<b>--data-replication-factor {2, 3}</b>	オプション。デフォルト 3	データ レプリケーション係数 (2 または 3)。これは、初めてストレージクラスタを作成するときのみ設定できます。
<b>--dryrun</b>	任意	入力パラメータを検証するだけです。
<b>--esx-username ESXUSERNAME</b>	任意	ESX 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら ESX 管理者パスワードを入力します。
<b>-f, --force</b>	任意	強制的にストレージクラスタを作成します。これは、ネットワーク設定エラーを無視し、提供された情報でクラスタを作成します。
<b>--vcenter-cluster VCENTERCLUSTER</b>	任意	vCenter クラスタの名前。
<b>--vcenter-sso-url VCENTERSSOURL</b>	任意	vCenter SSO サーバの URL。指定されていない場合、これは --vcenter-url から推測されます。
<b>--vcenter-url VCENTERURL</b>	任意	vCenter の URL、<vcentername>。 <vcentername> には、FQDN または IP アドレスを指定できます。
<b>--vdi-only-deployment</b>	オプション。デフォルトは VSI です。	ワークロードタイプとして VDI を設定します。
<b>--clusterType {0,1,2}</b>	任意	0 : デフォルトクラスタ、1 : ストレッチクラスタ、2 : 2 ノードエッジクラスタ

Option	必須またはオプション	説明
<b>-zone {0,1}</b>	任意	ゾーンを有効 (1) または無効 (0) にします。
<b>--deploymentMode {0,1}</b>	オプション	0 : エッジ、1 : FI
<b>--managedBy {0,1}</b>	オプション	0 : HX コネクト、1 : インターサイト
コントローラ VM ルート ユーザー パスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。  プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

**コマンドデフォルト** なし。必須および省略可能なパラメータのリストについては、表を参照してください。

**使用上のガイドライン** `stcli cluster create` コマンドでは、適切な位置指定引数を指定します。

## stcli cluster info コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタとそのストレージクラスタ内の各ノードに関する詳細情報を表示します。

**stcli cluster info [-h] --summary**

**構文の説明**

Option	必須またはオプション	説明
<b>--summary</b>	オプション。	情報の要約のみを返します。

**コマンドデフォルト** 完全なクラスタ情報を返します。

**使用上のガイドライン** `stcli cluster info` コマンドでは、[] で囲まれた位置指定引数を任意に指定して、クラスタ情報の概要を返すことができます。



- (注) vCenter または stMgr がダウンしている場合、stcli データ保護操作からのエラーメッセージは一目でわかりません。vCenter 接続が良好であること、および「stcli cluster info」コマンドがクラスタの健全性ステータスを返すことを確認してから、stcli データ保護操作を実行してください。

```
# stcli cluster info

about:
  serviceType: stMgr
  instanceUuid: 345258cf-12d4-4d71-ba9e-b91e47d15e49
  name: HyperFlex StorageController
  locale: English (United States)
  serialNumber:
  apiVersion: 0.1
  modelNumber: X9DRT
  build: 2.0.1a-20569 (internal)
  displayVersion: 2.0(1a)
  fullName: HyperFlex StorageController 2.0.1a
  productVersion: 2.0.1a-20569

vCluster:
  state: online
  boottime: 0
  entityRef:
    type: virtcluster
    id: domain-c876
    name: cs002-cl
  virtNodes:
    -----
    type: virtnode
    id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423a4
    -----
    type: virtnode
    id: 00000000-0000-0000-0000-002590d42388
    -----
    type: virtnode
    id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
    -----
  virtDatastores:

upgradeState: ok
upgradeVersion: 2.0.1a-20569
cluster:
  allFlash: False
  healthState: healthy
  capacity: 5.0T
  state: online
  compliance: 1
  resiliencyInfo:
    nodeFailuresTolerable: 1
    state: 1
    messages:
      Storage cluster is healthy.
    cachingDeviceFailuresTolerable: 1
    persistentDeviceFailuresTolerable: 1

activeNodes: 3
uptime: 18:53:15
boottime: 1484703014
```



```
entityRef:
  type: cluster
  id: 345258cf12d44d71:456146e1b82ea1b7
downtime: 0:00:00
healingInfo:
  inProgress: False
freeCapacity: 5.0T
usedCapacity: 55.0G
config:
  clusterUuid: 345258cf12d44d71:456146e1b82ea1b7
  ip: 10.104.48.28
  dataReplicationFactor: 2
  clusterAccessPolicy: lenient
  size: 3

nodes:
-----
type: pnode
id: bf7a0223564d0db8:88974e15886ab3e0
name: 10.104.48.27
-----
type: pnode
id: d1b5bc18564da19b:bc1e977ebd9aafec
name: 10.104.48.26
-----
type: pnode
id: d8e6ec9a564de28a:9d870ca45456c471
name: 10.104.48.24
-----

rawCapacity: 10.0T
state: online

stNodes:
-----
type: node
id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423b2
name: cs-002a
-----
type: node
id: 00000000-0000-0000-0000-002590d42388
name: cs-002c
-----
type: node
id: 00000000-0000-0000-0000-002590d423a4
name: cs-002d
-----

entityRef:
  type: cluster
  id: 3770173484459904369:4999354996629610935
  name: cs002-cl
config:
  clusterUuid: 3770173484459904369:4999354996629610935
  name: cs002-cl
  mgmtIp:
    addr: 10.104.32.32
    method: dhcp
  vCenterDatacenter: cs002-dc
  ip:
    addr: 10.104.48.28
    method: dhcp
  vCenterClusterName: cs002-cl
  dataReplicationFactor: 2
  workloadType: 2
  vCenterClusterId: domain-c876
```

```
nodeIPSettings:
  cs-002d:
  cs-002c:
  cs-002a:
vCenterDatacenterId: datacenter-871
clusterAccessPolicy: lenient
vCenterURL: cs-vc6
dnsServers:
size: 3
```

## stcli cluster diag コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

クラスタに関する診断メッセージを提供します。

**stcli cluster diag [-h] [--id ID | --ip NAME] [--type TYPE]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	オプション。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
<b>--ip NAME</b>	オプション。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。
<b>--type TYPE</b>	オプション。	ストレージクラスタ ノードのタイプ。省略可能なパラメータは <code>converged</code> と <code>compute</code> です。

**コマンド デフォルト** ノードを指定しないと、デフォルトがストレージクラスタのすべてのノードに適用されます。

**使用上のガイドライン** `stcli cluster diag` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli cluster refresh コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタのステータスを更新します。

**stcli cluster refresh [-h]**

コマンドデフォルト 更新されたクラスタのステータスを返します。

使用上のガイドライン `stcli cluster refresh` コマンドは、クラスタのステータスを手動で更新するために実行します。

**stcli cluster shutdown コマンド**

(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ操作を停止してシャットダウンします。

**stcli cluster shutdown [-h] [--formatchange]**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<code>--formatchange</code>	オプション。	クラスタのシャットダウン後にディスクフォーマットを変更できるようにします。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli cluster shutdown` コマンドは、[] で囲まれた引数を任意に指定して実行します。

**stcli cluster start コマンド**

(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタを起動します。

**stcli cluster start [-h]**

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli cluster start` コマンドには、他にオプションはありません。

## stcli cluster upgrade コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Data Platform ソフトウェアを最新のバージョンにアップグレードします。



**重要** パスワードの入力を求められたら、入力します。

```
stcli cluster upgrade [-h] [--status] [--info] [--components COMPONENTS {hxdp | ucs-fw}] [--location LOCATION] [--hypervisor-bundle HYPERVISOR-BUNDLE] [--vcenter-user VCENTERUSER] [--checksum CHECKSUM] [--ucsm-host UCSMHOST] [--ucsm-user UCSMUSER] [--ucsfw-version UCSFR-VERSION] [--ucsm5-fw-version UCSM5-FW-VERSION] [--dryrun]
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--checksum CHECKSUM	任意	インストーラのチェックサム。
--components COMPONENTS	必須	カンマ区切りのアップグレード コンポーネント {hxdp, ucs-fw, mgmt-only, hypervisor}
--dryrun	任意	クラスタのアップグレードが可能であることを検証します。
--info	任意	アップグレード情報を確認します。
--location LOCATION	任意	アップグレードパッケージの場所。コントローラ VM 上の /tmp を使用するのが最善です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>アップグレードパッケージをコンピュータにダウンロードします。</li> <li>それを (scp または同様のツールを使用して)、アップグレードコマンドを実行しているアプライアンスのコントローラ VM にアップロードします。</li> </ul>

Option	必須またはオプション	説明
--hypervisor-bundle HYPERVISOR-BUNDLE	任意	ESXi オフラインバンドルの場所。コントローラ VM 上の /tmp を使用するのが最善です。  <ul style="list-style-type: none"> <li>• アップグレードパッケージをコンピュータにダウンロードします。</li> <li>• それを (scp または同様のツールを使用して)、アップグレードコマンドを実行しているアプライアンスのコントローラ VM にアップロードします。</li> </ul>
--status	任意	アップグレードステータスを確認します。
--ucsfw-version UCSFW-VERSION	任意	UCS サーバファームウェアターゲットバージョン。
--ucsm5-fw-version UCSM5-FW-VERSION	任意	M5 サーバの UCS サーバファームウェアターゲットバージョン。
--ucsm6-fw-version UCSM6-FW-VERSION	オプション	M6 サーバの UCS サーバファームウェアターゲットバージョン。
--ucsm-host UCSMHOST	任意	UCS Manager サーバのホスト名または IP アドレス。
--ucsm-user UCSMUSER	条件付きで必要です。	UCS Manager サーバのユーザ名。  UCS Manager コンポーネントをアップグレードする場合にのみ必要です。
--vcenter-user VCENTERUSER	条件付きで必要です。	vCenter 管理者のユーザ名。vCenter コンポーネントをアップグレードする場合にのみ必要です。  プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。
--vcenter-password VCENTERPWD	条件付きで必要です。	vCenter サーバのパスワード。  vCenter コンポーネントをアップグレードする場合にのみ必要です。

**コマンドデフォルト**

追加のオプションを指定しないと、既存のストレージクラスタの設定を指定したものと見なされます。

**使用上のガイドライン**

stcli cluster upgrade コマンドでは、[] で囲まれた引数を 1 つ以上任意に指定できます。

[Cisco HyperFlex Systems アップグレードガイド](#)を参照してください。

## stcli cluster upgrade-status コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Data Platform ソフトウェアの最後の既知のアップグレードステータスを表示します。アップグレードが進行中の場合は、暫定的なステータスを表示します。アップグレードが完了すると、そのステータスには最新のアップグレードが表示されます。また、アップグレードが利用可能かどうかや、アップグレードを予定しているかどうか也表示します。

### stcli cluster upgrade-status [-h]

**コマンド デフォルト** 指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli cluster upgrade-status コマンドを指定します。

次に例を示します。

```
# stcli cluster upgrade-status
```

```
Nodes up to date: [cs-002a(10.104.32.21), cs-002c(10.104.32.25), cs-002d(10.104.32.27)]
Cluster upgrade succeeded.
```

## stcli cluster upgrade-kernel コマンド



(注) (このコマンドはサポートされません)。

## stcli cluster version コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ内の各ノードのバージョン番号を表示します。

### stcli cluster version [-h]

**コマンド デフォルト** 指定できるオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli cluster version コマンドを実行します。

次に例を示します。

```
# stcli cluster version
Cluster version: 2.0(1a)
Node cs-002c version: 2.0(1a)
Node cs-002a version: 2.0(1a)
Node cs-002d version: 2.0(1a)
```

## stcli cluster create-config コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

設定ファイルからストレージクラスタを作成します。



**重要** プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

```
stcli cluster create-config [-h] [-f] [--dryrun] --vcenter-user VCENTERUSER [--esx-username ESXUSERNAME] config
```

表 2: 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>config</b>	必須	設定ストレージクラスタ ファイル。
<b>--dryrun</b>	任意	入力パラメータを検証するだけです。
<b>--esx-username ESXUSERNAME</b>	任意	ESX 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら ESX 管理者パスワードを入力します。
<b>-f, --force</b>	任意	強制的にストレージクラスタを作成します。これは、ネットワーク設定エラーを無視し、提供された情報でクラスタを作成します。
<b>--vcenter-user VCENTERUSER</b>	任意	vCenter 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。

Option	必須またはオプション	説明
コントローラ VM ルート ユーザー パスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。  プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

**コマンド デフォルト** なし。必須および省略可能なパラメータのリストについては、表を参照してください。

**使用上のガイドライン** stcli cluster create-config コマンドでは、適切な位置指定引数を指定します。  
要件については VMware ESXi 向け Cisco HyperFlex System インストール ガイド を参照してください。

## stcli cluster recreate コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

強制オプションで既存のストレージクラスタを再作成します。



**重要** パスワードの入力を求められたら、パスワードを入力します。

### stcli cluster recreate [-h] --vcenter-user VCENTERUSER

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vcenter-user VCENTERUSER</b>	必須	vCenter 管理者のユーザ名。  プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。
	コントローラ VM ルー トユーザーパスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。  プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli cluster recreate コマンドでは、位置指定引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli cluster reregister コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

既存のストレージクラスタの登録を vCenter 間で移動します。



- 重要**
- このコマンドを実行するには、vCenter が稼働している必要があります。
  - パスワードの入力を求められたら、パスワードを入力します。

```
stcli cluster reregister [-h] --vcenter-datacenter NEWDATACENTER --vcenter-cluster NEWVCENTERCLUSTER --vcenter-url NEWVCENTERURLIP [--vcenter-sso-url NEWVCENTERSSOURL] --vcenter-user NEWVCENTERUSER
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--vcenter-cluster NEWVCENTERCLUSTER	必須	新しい vCenter クラスタの名前。
--vcenter-datacenter NEWDATACENTER	必須	新しい vCenter データセンター名。
--vcenter-sso-url NEWVCENTERSSOURL	任意	新しい vCenter SSO サーバの URL。指定されない場合、--vcenter url から推測されます。
--vcenter-url NEWVCENTERURL	必須	新しい vCenter の URL、<vcentername>。ここで、<vcentername> には新しい vCenter の FQDN または IP を使用できます。
--vcenter-user NEWVCENTERUSER	必須	新しい vCenter 管理者のユーザー名。 プロンプトが表示されたら vCenter 管理者パスワードを入力します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン 必要に応じて、必須の引数とオプションの引数を [] で囲んで stcli cluster reregister コマンドに付加します。

ある vCenter サーバから別の vCenter サーバにストレージクラスタを移動するときに使用します。このタスクは、ストレージクラスタを移動し、新しい vCenter にストレージクラスタを登録し、古い vCenter からストレージクラスタを登録解除します。Cisco HyperFlex データプラットフォーム管理ガイドを参照してください。

## stcli cluster get-data-replication-factor コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタのデータ レプリケーション係数を取得します。

**stcli cluster get-data-replication-factor [-h]**

コマンド デフォルト クラスタ設定を返します。

使用上のガイドライン stcli cluster get-data-replication-factor コマンドを実行します。

```
# stcli cluster get-data-replication-factor
3
```

## stcli cluster get-cluster-access-policy コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタのクラスタ アクセス ポリシーを取得します。

**stcli cluster get-cluster-access-policy [-h]**

コマンド デフォルト クラスタ設定を返します。

使用上のガイドライン stcli cluster get-cluster-access-policy コマンドを入力します。

```
# stcli cluster get-cluster-access-policy
lenient
```

## stcli cluster set-cluster-access-policy コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタのクラスタ アクセス ポリシーを設定します。

**stcli cluster set-cluster-access-policy [-h] --name {strict | lenient}**

#### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<code>--name {strict, lenient}</code>	必須です。	<p>ストレージクラスタのクラスタ アクセス ポリシーを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Strict</b> : データ損失から保護するためのポリシーを適用します。</li> <li>• <b>Lenient</b> : より長いストレージクラスタの可用性をサポートするためのポリシーを適用します。</li> </ul>

#### コマンド デフォルト

`stcli cluster set-cluster-access-policy` コマンドラインを使用する場合にデフォルトはありません。HX Data Platform インストーラを使用すると、デフォルトは `lenient` になります。

#### 使用上のガイドライン

ストレージクラスタの作成時に適用された設定を変更するために使用します。 `stcli cluster set-cluster-access-policy` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定します。

この例では、クラスタアクセスポリシーを `strict` に設定しています。このコマンドは、適用されている設定を返します。

```
# stcli cluster set-cluster-access-policy --name strict
strict
```

## stcli cluster enable-data-write-thru コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタでデータのライトスルーを有効にします。

**stcli cluster enable-data-write-thru [-h] [--id ID | --ip NAME]**

#### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<code>--id ID</code>	オプション。	<p>ストレージクラスタ ノードの ID。ID は、<code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされません。</p>

Option	必須またはオプション	説明
<b>--ip NAME</b>	オプション。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

**コマンド デフォルト** ノードを指定しないと、デフォルトがストレージクラスタのすべてのノードに適用されます。

**使用上のガイドライン** `stcli cluster enable-data-write-thru` コマンドでは、[] で囲まれた位置指定引数を任意に指定できます。

## stcli cluster disable-data-write-thru コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタでデータのライトスルーを無効にします。

**stcli cluster disable-data-write-thru [-h] [--id ID | --ip NAME]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--id ID</b>	オプション。	ストレージクラスタノードのID。IDは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされません。
	<b>--ip NAME</b>	オプション。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドでリストされます。

**コマンド デフォルト** ノードを指定しないと、デフォルトがストレージクラスタのすべてのノードに適用されます。

**使用上のガイドライン** `stcli cluster disable-data-write-thru` コマンドでは、[] で囲まれた位置指定引数を任意に指定できます。

## stcli cluster storage-summary コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

現在設定されているストレージクラスタについてストレージの概要を提供します。

**stcli cluster storage-summary [-h] [--uncached]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	--uncached	(省略可)	現在設定されているストレージクラスタについてストレージの概要を提供します。

コマンドデフォルト 他に指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン**

stcli cluster storage-summary --uncached コマンドは、結果を表示するために実行します。

```
# stcli cluster storage-summary --uncached

admin:~$ stcli cluster storage-summary --uncached
address: 10.104.17.158
name: ucs305_12_cl
state: online
uptime: 6 days 0 hours 39 minutes 16 seconds
activeNodes: 4 of 5
compressionSavings: 81.16%
deduplicationSavings: 0.0%
freeCapacity: 8.3T
healingInfo:
  messages:
    Auto healing in progress, 53% completed.
  inProgress: True
  percentComplete: 53
  estimatedCompletionTimeInSeconds: 24
resiliencyInfo:
  messages:
    Storage cluster is unhealthy.
  state: 2
  nodeFailuresTolerable: 1
  cachingDeviceFailuresTolerable: 2
  persistentDeviceFailuresTolerable: 1
  zoneResInfoList: None
spaceStatus: normal
totalCapacity: 8.4T
totalSavings: 81.16%
usedCapacity: 82.3G
zkHealth: online
clusterAccessPolicy: lenient
dataReplicationCompliance: non_compliant
dataReplicationFactor: 3
```

**stcli cluster get-zone コマンド**

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ゾーンの詳細を取得します。Gets the zone details. このオプションは、ゾーンが有効になっているか確認するために使用されます。

**stcli cluster get-zone**

**コマンド デフォルト** ユーザー入力はありません。

**使用上のガイドライン** stcli cluster get-zone コマンドには追加のオプションがありません。

**stcli cluster set-zone コマンド**

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ゾーンを有効または無効にします。

**stcli cluster set-zone <--zone option\_arg {1:enable, 0:disable}> [--numzones option\_arg]**

**コマンド デフォルト** オプション<--numzones>が指定されていない場合、storfs は起動時にクラスタのノードのアクティブ数に基づき、自動的に設定されるゾーン数を決定します。

**使用上のガイドライン** stcli cluster set-zone コマンドをゾーンオプションとともに使用して、ゾーンを有効または無効にします。

```
stcli cluster set-zone --zone 0 (to disable a zone)
```

```
stcli cluster set-zone --zone 1 (to enable and create default number of zones)
```

```
stcli cluster set-zone --zone 1 -numzones <integer-value> (to enable zones and create a specific number of zones)
```



**警告** stcli rebalance コマンドのサポートは、シスコテクニカルサポートに限定されます。一般的な使用はサポートされていません。

**stcli datastore コマンド****stcli datastore コマンド**

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ データストアの操作。

**stcli datastore [-h] {list | create | info | update | delete | mount | unmount}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>create</b>	いずれか1つが必須。	指定された名前とサイズでストレージクラスタ データストアを作成します。
	<b>delete</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアを削除します。
	<b>info</b>	セットのいずれかが必要。	指定されたストレージクラスタ データストアに関する情報を提供します。
	<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアをリストします。
	<b>mount</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアをマウントします。
	<b>unmount</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアをアンマウントします。
	<b>update</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ データストアの名前やサイズを更新します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli datastore コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli datastore list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ データストアをリストします。

**stcli datastore list [-h]**

**コマンド デフォルト** 指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli datastore list コマンドを実行し、[] で囲まれた引数を任意に追加できます。

## stcli datastore create コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定された名前とサイズでストレージクラスタ データストアを作成します。

```
stcli datastore create [-h] --name NAME --size SIZE [--unit {kb | mb | gb | tb}] [--blocksize {8k,4k}]
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--blocksize</b>	オプション。	格納されるデータのブロック サイズ。すべてのデータストアでデフォルトは 8K です。VDI ワークロードでは、4K がデフォルトです。
<b>--name NAME</b>	必須です。	ストレージクラスタ データストアの名前。
<b>--size SIZE</b>	必須です。	ストレージクラスタ データストアのサイズ。
<b>--unit {kb,mb,gb,tb}</b>	オプション。	サイズの単位。デフォルトは GB です。

### コマンド デフォルト

ID または NAME を指定する必要があります。デフォルトの測定単位は GB です。デフォルトのブロック サイズは 8 K です。

### 使用上のガイドライン

stcli datastore create コマンドでは、必須のパラメータを両方とも指定するほか、必要に応じてパラメータを任意に指定できます。

## stcli datastore info コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定されたストレージクラスタ データストアに関する情報を提供します。

```
stcli datastore info [-h] [--id ID | --name NAME]
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか 1 つが必須。	データストアの ID。



Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	セットのいずれかが必須。	データストアの名前。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli datastore info` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli datastore update コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ データストアの名前やサイズを更新します。

```
stcli datastore update [-h] [--id ID | --name NAME] [--newname NEWNAME] [--size SIZE] [--unit {kb | mb | gb | tb}]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	データストアのID。
	<b>--name NAME</b>	セットのいずれかが必須。	データストアの名前。
	<b>--name NAME</b>	オプション。	ストレージクラスタ データストアの新しい名前。
	<b>--size SIZE</b>	オプション。	ストレージクラスタ データストアの新しいサイズ。
	<b>--unit {kb,mb,gb,tb}</b>	オプション。	サイズの単位。デフォルトはGBです。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。デフォルトの単位はGBです。

**使用上のガイドライン** `stcli datastore update` コマンドでは、必須のパラメータを指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli datastore delete コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ データストアを削除します。

**stcli datastore delete [-h] [--id ID | --name NAME]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	データストアの ID。
<b>--name NAME</b>	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli datastore delete コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli datastore mount コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ データストアをマウントします。

**stcli datastore [-h] [--id ID | --name NAME]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	データストアの ID。
<b>--name NAME</b>	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli datastore mount コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli datastore unmount コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ データストアをアンマウントします。

**stcli datastore unmount [-h] [--id ID | --name NAME]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	データストアの ID。
<b>--name NAME</b>	セットのいずれかが必要。	データストアの名前。

### コマンドデフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli datastore unmount コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli disk コマンド

### stcli disk コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ ディスクに対する操作。

**stcli disk [-h] {list | add}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>add</b>	いずれか1つが必須。	検出された新しいディスクと指定されたブラックリスト登録済みのディスクをストレージクラスタに追加します。
<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	ノード内のストレージクラスタ ディスクをリストします。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli disk コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli disk list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ノード内のストレージクラスタ ディスクをリストします。

**stcli disk list [-h] [--id ID | --name NAME] [--rescan]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ ノードの ID。ID は stcli cluster info コマンドに一覧表示されています。local はローカルノードに対してデフォルトです。
<b>--ip NAME</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は stcli cluster info コマンドに一覧表示されています。localhost はローカルノードに対してデフォルトです。
<b>--rescan</b>	オプション。	ディスクを再スキャンします。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。オプションのデフォルトは、*ID* の場合は local、*NAME* の場合は localhost です。

**使用上のガイドライン** stcli disk list コマンドでは、位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) ディスクを取り外してもクラスタ概要情報に表示され続ける場合があります。情報を更新するには、HX クラスタを再起動します。

## stcli disk add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

検出された新しいディスクと指定されたブラックリスト登録済みのディスクをストレージクラスタに追加します。

```
stcli disk add [-h] [--id ID | --name NAME] --blacklisted-disk-ids [DISKIDS [DISKIDS ...]]
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタ ノードの ID。
<b>--name NAME</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ノードの名前。
<b>--blacklisted-disk-ids [DISKIDS [DISKIDS ...]]</b>	必須です。	ストレージクラスタに追加するブラックリスト登録済みのディスク。ID が複数ある場合はスペースで区切ります。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli disk add コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかと必須の --blacklisted-disk-ids オプションを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp (data protection) コマンド

### stcli dp コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

レプリケーションとディザスタリカバリのためのデータ保護 (DP) コマンドです。

```
stcli dp [-h] (vm | group | peer | schedule)
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>group</b>	いずれか1つが必須。	データ保護グループのスナップショット操作。
	<b>peer</b>	セットのいずれかが必要。	サイト レプリケーションペアリング操作。
	<b>schedule</b>	セットのいずれかが必要。	送信側クラスタのクラスタ全体で、レプリケーションを一時停止してから再開します。
	<b>vm</b>	セットのいずれかが必要。	レプリケーション スナップショット操作による VM データ保護。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

保護グループを介してではなく、仮想マシンに個別に適用される HX データプラットフォーム ディザスタ リカバリ コマンドとネイティブのレプリケーション コマンド。

**stcli dp vm [-h] {snapshot | add | list | info | delete | movein | moveout | schedule | prepareReverseProtect | reverseProtect | failover | testfailover | prepareFailover | migrate | hxtask}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>snapshot</b>	Unsupported	HX リリース 3.5(2g) 以降、スナップショット コマンドのサポートは、Cisco Tech サポートのみに限定されています。一般的な使用はサポートされていません。
	<b>add</b>	いずれか1つが必須。	仮想マシンにデータ保護を追加します。
	<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	データが保護されている仮想マシンをリストします。
	<b>info</b>	セットのいずれかが必要。	データが保護されている仮想マシンに関する情報を表示します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>delete</b>	セットのいずれかが必要。	仮想マシンからデータ保護を削除します。
<b>movein</b>	セットのいずれかが必要。	データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。
<b>moveout</b>	セットのいずれかが必要。	保護グループからデータ保護仮想マシンを移動します。
<b>schedule</b>	セットのいずれかが必要。	仮想マシンのデータ保護をスケジュールします。
<b>prepareReverseProtect</b>	いずれか1つが必須。	指定仮想マシンの逆の保護アクションを準備します。
<b>reverseProtect</b>	セットのいずれかが必要。	指定の仮想マシンの逆の保護アクションを実行します。
<b>failover</b>	セットのいずれかが必要。	復元 HX ストレージクラスタから個別仮想マシンをフェールオーバーします。
<b>testfailover</b>	セットのいずれかが必要。	復元 HX ストレージクラスタから個々の仮想マシンの復元をテストするためのものです。
<b>prepareFailover</b>	セットのいずれかが必要。	指定仮想マシンのフェールオーバーアクションを準備します。
<b>migrate</b>	セットのいずれかが必要。	指定の仮想マシンを管理します。
<b>hxtask</b>	セットのいずれかが必要。	動作に関連するデータ保護。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm snapshot コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護仮想マシンのレプリケーション スナップショット操作。



(注) このコマンドとそのサブコマンドはサポートされません。

**stcli dp vm snapshot [-h] {create | replicate | list | info | delete}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>create</b>	いずれか1つが必須。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。
	<b>replicate</b>	セットのいずれかが必要。	仮想マシンのレプリケーション スナップショットをレプリケートします。
	<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	このクラスターで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。
	<b>info</b>	セットのいずれかが必要。	レプリケーション スナップショットの情報を表示します。
	<b>delete</b>	セットのいずれかが必要。	指定されたレプリケーションスナップショットを削除します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm snapshot コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

**stcli dp vm snapshot create コマンド**



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

仮想マシンのレプリケーション スナップショットを作成します。

**stcli dp vm snapshot create [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapname SNAPSHOTNAME [--desc DESCRIPTION] [--quiesce] [--offline]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。



Option	必須またはオプション	説明
<b>--vmidtype {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--snapname SNAPSHOTNAME</b>	必須です。	レプリケーションスナップショットの名前。
<b>--desc DESCRIPTION</b>	オプション。	レプリケーションスナップショットの説明。
<b>--quiesce</b>	オプション。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーショングループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
<b>--Offline</b>	任意	オフラインスナップショットを撮影します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot create コマンドでは、2つのダッシュ (-) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli dp vm snapshot replicate コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

仮想マシンレプリケーション スナップショットをリモート クラスタにレプリケートします。

**stcli dp vm snapshot replicate [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOT-ID --outgoing OUTGOING**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--vmidtype {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--snapshot-id SNAPSHOTID</b>	必須です。	レプリケートする VM のスナップショット ID。
<b>--outgoing OUTGOING</b>	必須です。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot replicate コマンドでは、2つのダッシュ (-- )で始まる必須の引数を指定し、{}で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[]で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli dp vm snapshot list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

このクラスタで利用できるレプリケーション スナップショットをリストします。

**stcli dp vm snapshot list [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	<b>--vmidtype {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot list コマンドでは、2つのダッシュ (-- )で始まる必須の引数を指定し、{}で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[]で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli dp vm snapshot info コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

VM スナップショットの詳細を表示します。

**stcli dp vm snapshot info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--vmidtype</b> <b>{VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
<b>--snapshot-id</b> <b>SNAPSHOTID</b>	必須です。	VM のスナップショット ID。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot info コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli dp vm snapshot delete コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定されたスナップショットを削除します。

**stcli dp vm snapshot delete [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --snapshot-id SNAPSHOTID**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	<b>--vmidtype</b> <b>{VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	<b>--snapshot-id</b> <b>SNAPSHOTID</b>	必須です。	削除する VM のスナップショット ID。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm snapshot delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定し、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

仮想マシンでデータ保護を追加します。

Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前のコマンド構文。

**stcli dp vm add [-h] --vmid VMID [--vmidtpe {VMBIOSUUID}]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、仮想マシンの固有 VMBIOSUUID を指定します。
	<b>--vmidtpe {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  か仮想マシンの ID タイプ (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン このコマンドは、Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前でのみサポートされています。  
stcli dp vm add コマンドでは、2 つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護を備えた仮想マシンをリストします。表示内容には、レプリケーションスケジュールが含まれています。

**stcli dp vm list [-h] [--vmname VMNAME] [--vmid VMID] [--brief]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmname VMNAME</b>	オプション。	指定された名前に一致する保護された仮想マシンをリストします。
	<b>--vmid VMID</b>	オプション。	耐用年数全体で、VM を追跡するために使用するために指定された内部の元の VMID に一致する仮想マシンで、コマンドを実行します。
	<b>--brief</b>	オプション。	概要のみを表示します。

**コマンド デフォルト** デフォルトでは、保護されたすべての仮想マシンをリストします。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm list コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

次の例では、保護された仮想マシンの概要をリストしています。

```
# stcli dp vm list --brief
vmInfo:
-----
name: dslvm-2
uuid: 423f11c4-20c9-893b-0dd8-2a0ad59ad634
-----
name: dslvm-1
uuid: 423f1d85-990a-4e06-ebef-a215c0ec4cf8
-----
```

## stcli dp vm info コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護仮想マシン情報をリストします。

**stcli dp vm info [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--vmidtpe {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID のタイプです (vmoid、vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm info コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm delete コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

仮想マシンからデータ保護を削除します。

**stcli dp vm delete [-h] --vmid VMID [--vmidtpe {VMBIOSUUID}]**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。
<b>--vmidtpe {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID タイプ (vmbiosuuid)。vCenter では、固有仮想マシン VMBIOSUUID を指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm delete コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm movein コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。

**stcli dp vm movein [-h] --vmids VMIDS [VMIDS ...] --groupid GROUPID**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
	<b>--groupid GROUPID</b>	オプション。	スタンドアロン仮想マシンを移動するグループの ID。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm movein コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm moveout コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護仮想マシンを保護グループに移動します。

**stcli dp vm moveout [-h] (--vmids VMIDS [VMIDS ...] | --allVMs) --groupid GROUPID**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--allVMs</b>	オプション。	グループから仮想マシンを移動します。
<b>--groupid GROUPID</b>	オプション。	スタンドアロン仮想マシンを移動するグループの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン

- stcli dp vm moveout コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。
- allVMs はセカンダリでのみ実行できます。allVMs は、リカバリに備えて、すべての VM をグループから移動します。このオプションは、グループのすべての VM でリカバリを実行する場合にのみ使用します。allVMs オプションは廃止予定であり、将来のリリースでは削除されます。

## stcli dp vm schedule コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HyperFlex データ保護 VM スケジュール操作。

**stcli dp vm schedule [-h] {set,get}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--set</b>	いずれか 1 つが必須。	VM スケジュール操作を設定します。
	<b>--get</b>	いずれか 1 つが必須。	VM スケジュールを取得します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli dp vm schedule get コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

VM レプリケーション スケジュール情報を取得します。



### stcli dp vm schedule get [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	<b>--vmidtype {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm schedule get コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli dp vm schedule set コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

VM レプリケーション スケジュールを設定します。

### stcli dp vm schedule set [-h] --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}] --replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES [--start-time REPLICATIONSTARTTIME] [--quiesce-using-tools] [--outgoing OUTGOING]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	<b>--vmidtype {VMBIOSUUID}</b>	オプション。	指定した ID タイプに一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	<b>--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES</b>	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
	<b>--start-time REPLICATIONSTARTTIME</b>	任意	mm/dd/yy_HH_MM 形式でのレプリケーション開始時刻。
	<b>--quiesce-using-tools</b>	任意	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーショングループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。

Option	必須またはオプション	説明
<code>--outgoing OUTGOING</code>	任意	データがレプリケートされる発信/ターゲットクラスタの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp vm schedule set` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm prepareReverseProtect コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに `hxcli` コマンドを使用することをお勧めします。

指定仮想マシンの逆の保護アクションを準備します。

**stcli dp vm prepareReverseProtect [-h] --vmid VMID [--force]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>--vmid VMID</code>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID ( <code>vmbiosuuid</code> )。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの <code>VMBIOSUUID</code> を指定します。
	<code>--force</code>	オプション。	引数を検証することなく、逆の保護準備を実行します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp vm prepareReverseProtect` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm failover コマンド

リカバリ HX ストレージクラスタから個々の仮想マシンをフェールオーバーするためのものです。リカバリ HX ストレージクラスタは、仮想マシンを保護するレプリケーションペアのターゲットクラスタです。

このコマンドは、`status` コマンドによるモニタに使用されるジョブ ID を出力します。

```
stcli dp vm failover [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name
RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME]
[--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron] [--force]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。
	<b>--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のリソースプールに配置します。
	<b>--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のリソースプールに配置します。
	<b>--folder-id FOLDER-ID</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。
	<b>--folder-name FOLDER-NAME</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
	<b>--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]</b>	オプション。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は <code>source_network:destination_network</code> です。次に例を示します。  <pre>--network-mapping "source_network1:destination_network1", "source_network2:destination_network2"</pre>
	<b>--poweron</b>	オプション。	リカバリ後に VM の電源をオンにします
	<b>--force</b>	オプション。	引数を検証せずにリカバリを実行します

**コマンドデフォルト** 場所は、デフォルトではコマンド実行パスになります。

**使用上のガイドライン** `stcli dp vm failover` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、`[]` で囲まれた引数を指定します。

## stcli dp vm testfailover コマンド

リカバリ HX ストレージ クラスタからの、個々の仮想マシンに対するリカバリをテストします。リカバリ HX ストレージ クラスタは、仮想マシンを保護するレプリケーションペアのターゲット クラスタです。

このコマンドは、`status` コマンドによるモニタに使用されるジョブ ID を出力します。

```
stcli dp vm testfailover [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID |
--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name
```

**FOLDER-NAME**] [--test-network TESTNETWORK] [--network-mapping NETWORKMAPPING  
[NETWORKMAPPING ...]] [--poweron] [--force] [--newname NEWNAME]

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID にマッチする仮想マシンを一覧表示します。
	<b>--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のリソースプールに配置します。
	<b>--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のリソースプールに配置します。
	<b>--folder-id FOLDER-ID</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された ID のフォルダに配置します。
	<b>--folder-name FOLDER-NAME</b>	選択可能なペアの一方。	回復した VM を指定された名前のフォルダに配置します。
	<b>--test-network TESTNETWORK</b>	オプション。	テストリカバリに使用するネットワークをテストします。すべてのソースネットワークは、リカバリ後にこのネットワークに割り当てられます。
	<b>--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]</b>	オプション。	送信元ネットワークを宛先ネットワークにマップします。形式は <code>source_network:destination_network</code> です。次に例を示します。  <pre>--network-mapping "source_network1:destination_network1","source_network2:destination_network2"</pre>
	<b>--poweron</b>	(省略可)	リカバリ後に VM をオンにします
	<b>--force</b>	(省略可)	引数を検証することなく、強制的にリカバリを実行します。
	<b>--newname NEWNAME</b>	(省略可)	テストリカバリの行われる VM の新しい名前です。

**コマンド デフォルト** デフォルトでは、テストリカバリは `HxTestRecovery` フォルダ内の同じ名前の VM をリカバリします。

**使用上のガイドライン** `stcli dp vm testfailover` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、`[]` で囲まれた引数を指定します。

## stcli dp vm prepareFailover コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定仮想マシンのフェールオーバーアクションを準備します。

**stcli dp vm prepareFailover [-h] --vmid VMID [--force]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
	<b>--force</b>	オプション。	引数を検証することなく、逆のフェールオーバー準備を実行します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm prepareFailover コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm migrate コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定の仮想マシンを管理します。

**stcli dp vm migrate [-h] --vmid VMID [--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID | --resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME] [--folder-id FOLDER-ID | --folder-name FOLDER-NAME] [--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]] [--poweron]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--vmid VMID</b>	必須。	指定した BIOS UUID に一致する仮想マシンでコマンドを実行します。  仮想マシンの ID (vmbiosuuid)。vCenter を使用している場合は、個別の仮想マシンの VMBIOSUUID を指定します。
	<b>--resourcepool-id RESOURCEPOOL-ID</b>	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるリソースプール ID。
	<b>--resourcepool-name RESOURCEPOOL-NAME</b>	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるリソースプール名。
	<b>--folder-id FOLDER-ID</b>	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるフォルダ ID。
	<b>--folder-name FOLDER-NAME</b>	オプション。	回復済みの仮想マシンが配置されるフォルダ名。
	<b>--network-mapping NETWORKMAPPING [NETWORKMAPPING ...]</b>	オプション。	「Source Network":"Destination Network」という形式による、送信元から宛先までのネットワーク マップ。
	<b>--poweron</b>	オプション。	回復後に仮想マシンの電源をオンにします。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp vm migrate コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp vm hxtask コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

動作に関連するデータ保護。

```
stcli dp vm hxtask [-h] [--vmid VMID] [--id ID] [--name NAME][--state {new,starting,running,suspended,shutting_down,completed,terminated,cancelled,exception,stalled}]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>- vmid VMID</b>	必須	保護グループに追加する仮想マシンの ID。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	任意	仮想マシンの ID。
<b>--name NAME</b>	オプション。	レプリケーション ネットワークに割り当てられている参照名。  (注) 小文字で始まる hx タスク コマンドだが、--name のフィルタリングは大文字から始まります。使用例 – testFailover の代わりに TestFailover。  フィルタされる名前は次のとおりです。 TestFailover フェールオーバー PrepareReverseProtect PrepareFailover ReverseProtect 移行
<b>--state</b>	オプション。	レプリケーション プロセスの状態: new 起動 実行 suspended shutting_down 「completed (完了)」 終了された キャンセル済み exception stalled

**コマンドデフォルト** なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli dp vm hxtask コマンドでは、2 つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するか、または任意で、[] で囲まれた引数を指定します。

## stcli dp group コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

個々の仮想マシンではなく仮想マシンの保護グループに適用されるHXデータプラットフォーム ディザスタ リカバリ コマンドとネイティブのレプリケーション コマンド。

**stcli dp group [-h] {add | list | delete | vm | snapshot | schedule}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>add</b>	いずれか1つが必須。	データ保護グループを追加します。
<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのリスト。
<b>delete</b>	セットのいずれかが必要。	データ保護グループを削除します。
<b>vm</b>	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内の VM タスク。
<b>snapshot</b>	セットのいずれかが必要。	データ保護グループ内のスナップショット操作。 (このコマンドはサポートされません)
<b>schedule</b>	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのレプリケーションをスケジュールします。

### コマンド デフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli dp group コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) HX リリース 3.5(2g) 移行、<command name> コマンドのサポート Cisco Tech サポートのみに限定されています。一般的な使用はサポートされていません。



## stcli dp group add コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護グループを追加します。

Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前のコマンド構文。

**stcli dp group add [-h] --groupname GROUPNAME**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--groupname GROUPNAME</b>	必須。	保護グループの名前。

### コマンドデフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

このコマンドは、Cisco HyperFlex リリース 5.0(2a) 以前でのみサポートされています。

stcli dp group add コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group list コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護グループの設定およびスケジュールをリストします。

**stcli dp group list [-h] [--groupname GROUPNAME] [--groupid GROUPID]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--groupname GROUPNAME</b>	オプション。	保護グループを付与されているグループ名とともにリストします。
<b>--groupid GROUPID</b>	オプション。	保護グループを付与された ID とともにリストします。
<b>--brief</b>	オプション。	概要のみを表示します。

### コマンドデフォルト

すべてのデータ保護グループをリストします。

**使用上のガイドライン** stcli dp group list コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、データ保護グループをリストしています。

```
# stcli dp group list
clusterEr:
  type: cluster
  id: 21038104951568023:6930626691413900957
  name: source17-2.5.1a
vmGroupState: active
vmGroupEr:
  type: dp_vmgroup
  id: 4de5d40f-82d6-40f6-9425-e4942bdd9be9
  name: group1
members:
-----
  idtype: 2
  type: dp_vm
  id: 423f38fd-9754-a25c-0d60-1ddacacaac60
-----
  idtype: 2
  type: dp_vm
  id: 423fc732-4841-3a0a-8d75-6c7bdcf8de67
-----
schedules:
  replicationSchedule:
    targetClusterEr:
      type: cluster
      id: 1279191129902762643:7329250794747596775
      name: target17-2.5.1a
    enabled: True
    mode: 2
    startTime: 07/19/17_20:24
    intervalInMinutes: 15
```

## stcli dp group delete コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定されたデータ保護グループを削除します。

**stcli dp group delete [-h] --groupid GROUPID**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--groupid GROUPID</b>	必須。	保護グループの ID。 保護グループを削除するには、すべての仮想マシンを削除する必要があります。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp group delete` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group vm コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

Hyperflex データ保護グループ VM 操作。

**stcli dp group vm [-h] {add | list | delete}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>add</b>	いずれか1つが必須。	VM をデータ保護グループに追加します。
	<b>list</b>	セットのいずれかが必須。	データ保護グループ内の VM をリストします。
	<b>delete</b>	セットのいずれかが必須。	データ保護グループから VM を削除します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン `stcli dp group vm` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group vm add コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

VM をデータ保護グループに追加します。

**stcli dp group vm add [-h] --groupid GROUPID --vmid VMID [--vmidtype {VMBIOSUUID}]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--groupid GROUPID</b>	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
	<b>--vmid VMID</b>	必須です。	保護グループに追加する仮想マシンの ID。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--vmidtpe</b> <b>{VMBIOSUUID}</b>	オプション。	保護グループに追加する仮想マシンの ID タイプ。  VCMOID オプションはサポートされません。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp group vm add コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group vm list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護グループに含まれている VM をリストします。

**stcli dp group vm list [-h] --groupid GROUPID**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--groupid GROUPID</b>	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp group vm list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group schedule コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

```
Hyperflex □□□□□□ □□□□□□□□□□
```

**stcli dp group schedule [-h] {set | get}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>set</b>	いずれか 1 つが必須。	データ保護グループのレプリケーション スケジュールを設定します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>get</b>	セットのいずれかが必要。	データ保護グループのレプリケーションスケジュールを取得します。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli dp group schedule` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group schedule get コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護グループのレプリケーションスケジュール情報をリストします。

**stcli dp group schedule get [-h] --groupid GROUPID [--outgoing OUTGOING]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--groupid GROUPID</b>	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
	<b>--outgoing OUTGOING</b>	オプション。	データがレプリケートされる発信/ターゲットクラスタの ID。

**コマンドデフォルト** 発信クラスタは、ペアリングされたリモートクラスタです。

**使用上のガイドライン** `stcli dp group schedule get` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp group schedule set コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護グループのレプリケーションスケジュールを設定します。

**stcli dp group schedule set [-h] --groupid GROUPID --replication-interval REPINTERVALINMINS [--start-time REPSTARTTIME] [--quiesce-using-tools] [--outgoing OUTGOING]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--groupid GROUPID</b>	必須。	VM が存在するデータ保護グループの ID。
	<b>--replication-interval REPINTERVALINMINS</b>	必須です。	分単位のレプリケーション間隔 (頻度)。ここでは、VM をターゲット クラスタにレプリケートする頻度を設定します。
	<b>--start-time REPSTARTTIME</b>	オプション。	mm/dd/yy_HH_MM 形式でのレプリケーション開始時刻。最初のレプリケーションをいつ開始するかを指定します。
	<b>--quiesce-using-tools</b>	オプション。	レプリケーションの前に VMware ツールを使用して VM を休止するかどうか。レプリケーション グループ内のすべての VM に VMware ツールをインストールする必要があります。
	<b>--outgoing OUTGOING</b>	オプション。	データがレプリケートされる発信/ターゲット クラスタの ID。

**コマンド デフォルト** 開始時刻は、コマンドの実行直後です。休止は設定されていません。発信クラスタは、ペアリングされたリモート クラスタです。

**使用上のガイドライン** stcli dp group schedule set コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

レプリケーション ペアのリモート (ピア) クラスタでの Hyperflex データ保護操作。

**stcli dp peer [-h] {get | add | list | query | edit | datastore | delete | forget | schedule}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>get</b>	いずれか 1 つが必須。	ピア クラスタの詳細を取得します。
	<b>add</b>	セットのいずれかが必要。	指定された入力を使用してペアを追加します。
	<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	すべてのペアを表示します。

Option	必須またはオプション	説明
query	セットのいずれかが必要。	ペア詳細を取得するためにペアに問い合わせます。
edit	セットのいずれかが必要。	ピア管理 IP のペアの説明を編集します。
datastore	セットのいずれかが必要。	既存のペアでマップされたデータストアを編集します。
delete	セットのいずれかが必要。	レプリケーション ペアを削除します。
forget	セットのいずれかが必要。	指定された入力を使用してピアを削除します。
schedule	セットのいずれかが必要。	ピア スケジュール操作。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp peer コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer get コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ピア クラスタの詳細をリストします。



(注) プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

**stcli dp peer get [-h] --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	必須。	ピアクラスタの管理 IP。
<b>--username USERNAME</b>	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer get コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定された入力を使用してレプリケーションペアを追加します。



注目 プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。



(注) このコマンドは、HX Connect のレプリケーションペアを設定しながら自動的に完了する検証プロセスと同様に、テストリモートレプリケーションネットワークを取り消したり、検証したりすることはしません。

**stcli dp peer add [-h] --name NAME --description DESCRIPTION --mgmtIp MGMTIP --username USERNAME**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須。	クラスタ ペアの名前。
<b>--description DESCRIPTION</b>	必須です。	クラスタ ペアの説明。
<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	必須。	ピアクラスタの管理 IP。
<b>--username USERNAME</b>	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのパスワードを入力します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer add コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



## stcli dp peer list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

すべてのレプリケーションペアを表示します。

**stcli dp peer list [-h]**

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer query コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ペアの詳細についてレプリケーションペアに問い合わせます。

**stcli dp peer query [-h] --name NAME**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須。	クラスタレプリケーションペアの名前。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer query コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer edit コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ペアの説明またはピア管理 IP を編集します



(注) (このコマンドはサポートされません)

```
stcli dp peer edit [-h] --name NAME [--description DESCRIPTION] [--mgmtIp MGMTIP] --username USERNAME --password PASSWORD
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--name NAME</b>	必須。	クラスタ ペアの名前
	<b>--description DESCRIPTION</b>	必須	クラスタ ペアの説明
	<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	必須	ピアクラスタの管理 IP
	<b>--username USERNAME</b>	必須	ピアクラスタのユーザ名 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer edit コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer datastore コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

既存のレプリケーションペアでマップされたデータストアを編集します。



(注) このコマンドは、HXConnect のペアを編集しながら自動的に完了する検証プロセスと同様に、テスト リモート レプリケーション ネットワークを取り消したり、検証したりすることはしません。

```
stcli dp peer datastore [-h] {edit | add | delete | editSchedule | editstatus | forget | }
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>edit</b>	いずれか 1 つが必須。	既存のペアでマップされたデータストアを編集します。
	<b>add</b>	セットのいずれかが必要。	既存のクラスタ ペアにデータストア マッピングを追加する

Option	必須またはオプション	説明
<b>delete</b>	セットのいずれかが必要。	既存のクラスター ペアのデータストア マッピングを削除する
<b>editSchedule</b>	セットのいずれかが必要。	既存のクラスター ペアのデータストア マッピングのスケジュールを編集します。
<b>editstatus</b>	セットのいずれかが必要。	データストア編集ジョブのステータス。
<b>forget</b>	セットのいずれかが必要。	編集中のデータストアペアを削除する。データストア ペアを削除する

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer datastore add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを追加します。

```
stcli dp peer datastore add [-h] --name NAME --localDs LOCALDS --peerDs PEERDS [--storageOnly]
[--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly] [--quiesce]
[--fallbackToCrashConsistent]
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>-h</b>	オプション。	ヘルプ メッセージを表示します
<b>--name NAME</b>	必須。	クラスター ペアの名前。
<b>--localDs LOCALDS</b>	必須です。	ローカル クラスターのデータストア名。
<b>--peerDs PEERDS</b>	必須です。	Peer クラスターのデータストア名。
<b>--storageOnly</b>	必須です。	SRM または外部 DR オーケストレーションは、入力データストアペアを管理します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES</b>	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
<b>--backupOnly</b>	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
<b>--quiesce</b>	必須です。	<b>backupOnly</b> がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
<b>--fallbackToCrashConsistent</b>	必須です。	<b>backupOnly</b> と <b>quiesce</b> がセットされると、VM ツール チェックが機能不全になり、このフラグは <b>Crash Consistent</b> スナップショットへのフォールバックを設定するかどうかを指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp peer datastore add` コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer datastore edit コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアを編集します。

```
stcli dp peer datastore edit [-h] --name NAME --datastore DATASTORE [--storageOnly]
[--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly] [--quiesce]
[--fallbackToCrashConsistent]
```

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須。	クラスタ ペアの名前。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--datastore DATASTORE</b>	必須です。	データストアは、操作とペアリングされます。フォーマットは次のとおりです。  local_ds:remote_ds:OPERATION  操作の選択：ADD、DELETE。
<b>--storageOnly</b>	必須です。	SRM または外部 DR オークストレーションは、入力データストアペアを管理します。
<b>--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES</b>	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
<b>--backupOnly</b>	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
<b>--quiesce</b>	必須です。	backupOnly がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
<b>--fallbackToCrashConsistent</b>	必須です。	backupOnly と quiesce がセットされると、VM ツール チェックが機能不全になり、このフラグは Crash Consistent スナップショットへのフォールバックを設定するかどうかを指定します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore edit コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、レプリケーションペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore edit
<local ds 1>:<peer ds 1>:ADD,<local ds 2>:<peer ds 2>:DELETE,..
```

## stcli dp peer datastore delete コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

既存のレプリケーションペアのデータストアのマッピングを削除します。

```
stcli dp peer datastore delete [-h] --name NAME --localDs LOCALDS --peerDs PEERDS
[--storageOnly] [--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly]
[--quiesce] [--fallbackToCrashConsistent]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>-h</b>	オプション。	ヘルプメッセージを表示します
	<b>--name NAME</b>	必須。	クラスタ ペアの名前。
	<b>--localDs LOCALDS</b>	必須です。	ローカル クラスタのデータストア名。
	<b>--peerDs PEERDS</b>	必須です。	ピアクラスタのデータストア名。
	<b>--storageOnly</b>	必須です。	SRM または外部 DR オークストレーションは、入力データストアペアを管理します。
	<b>--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES</b>	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
	<b>--backupOnly</b>	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
	<b>--quiesce</b>	必須です。	backupOnly がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
	<b>--fallbackToCrashConsistent</b>	必須です。	backupOnly と quiesce がセットされると、VM ツール チェックが機能不全になり、このフラグは Crash Consistent スナップショットへのフォールバックを設定するかどうかを指定します。

コマンド デフォルト なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp peer datastore delete コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer datastore editSchedule コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

既存のレプリケーション ペアでマップされたデータストアのスケジュールを編集します。

```
stcli dp peer datastore editSchedule [-h] --name NAME --localDs LOCALDS --peerDs PEERDS
[--storageOnly] [--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES] [--backupOnly]
[--quiesce] [--fallbackToCrashConsistent]
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>-h</b>	オプション。	ヘルプ メッセージを表示します
<b>--name NAME</b>	必須。	クラスタ ペアの名前。
<b>--localDs LOCALDS</b>	必須です。	ローカル クラスタのデータストア名
<b>--peerDs PEERDS</b>	必須です。	ピア クラスタのデータストア名
<b>--storageOnly</b>	必須です。	SRM または外部 DR オークストレーションは、入力データストア ペアを管理します。
<b>--replication-interval REPLICATIONINTERVALINMINUTES</b>	必須です。	分単位のレプリケーション間隔
<b>--backupOnly</b>	必須です。	入力データストア ペアは、バックアップにのみ使用されます。
<b>--quiesce</b>	必須です。	backupOnly がセットされると、このフラグは休止を設定するかどうかを指定します。
<b>--fallbackToCrashConsistent</b>	必須です。	backupOnly と quiesce がセットされると、VM ツール チェックが機能不全になり、このフラグは Crash Consistent スナップショットへのフォールバックを設定するかどうかを指定します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore editSchedule コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp datastore editstatus コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

レプリケーションペアのデータストア マッピング変更のステータスを表示します。

**stcli dp peer datastore editstatus [-h] [--jobid JOBID]**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--jobid JOBID	オプション。	データストア変更タスクのジョブ ID。

コマンド デフォルト

ジョブIDのデフォルトでは、すべてのデータストア編集のステータスがすべて表示されます。

使用上のガイドライン

stcli dp peer datastore editstatus コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

この例では、レプリケーションペアに関連付けられているデータストアを変更しています。

```
# stcli dp peer datastore editstatus
[<jobid>,<jobid>...,<jobid>]
```

## stcli dp peer datastore forget コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

編集中のデータストア ペアを削除します。データストアのペアは忘れてください。

**stcli dp peer datastore forget [-h] --name NAME [ --all [editPairOnly]**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
-h	オプション。	ヘルプメッセージを表示します



Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須。	クラスターペアの名前。
<b>--all</b>	必須です。	すべてのクラスターペアに対してこのアクションを実行します。
<b>--editPairOnly</b>	必須です。	設定されている場合、既存のデータストアペアリングを維持しながら、進行中のデータストアペア編集のみを忘れます。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli dp peer datastore forget コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp schedule コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

データ保護スケジュール操作。

**stcli dp schedule [-h] {pause | resume | status}**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>pause</b>	いずれか1つが必須。	レプリケーションを一時停止します。リモートクラスターへのレプリケーションスナップショットビットの送信を停止します。
<b>resume</b>	セットのいずれかが必要。	レプリケーションを再開します。リモートクラスターへのレプリケーションスナップショットビットの送信を再開します。
<b>status</b>	セットのいずれかが必要。	スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジューラされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli dp schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer delete コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

レプリケーション ペアからピアを削除します。



**重要** プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

**stcli dp peer delete [-h] --name NAME --username USERNAME [--mgmtIp MGMTIP]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須。	クラスタ レプリケーション ペアの名前。
<b>--username USERNAME</b>	必須です。	ピアクラスタのユーザ名。 プロンプトが表示されたら、ピア クラスタのユーザー パスワードを入力します。
<b>--mgmtIp MGMTIP</b>	オプション。	ピアクラスタの管理 IP。

**コマンド デフォルト** 管理 IP は、現在関連付けられているピアと見なされます。

**使用上のガイドライン** stcli dp peer delete コマンドでは、2 つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp peer forget コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

これは、ピア間のペアリング (ソース クラスタとターゲット クラスタ) を解除します。別のクラスタとペアリングするために各クラスタを解放します。

**stcli dp peer forget [-h] [--name NAME] [--all]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>--all</code>	いずれか1つが必須。	すべての部分的なペアと正常にペアになったクラスタの、ピア間のペアリングを解除します。
	<code>--name NAME</code>	セットのいずれかが必要。	指定された名前のクラスタ ペアのために、ピア間のペアリング（ソースクラスタとターゲットクラスタ）を解除します。

コマンド デフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp peer forget` コマンドでは、2つのダッシュ (`--`) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



(注) NR/NFS のクリーンアップ時間の遅延：VMレプリケーションプロセス中に、「未処理のレプリケーション ジョブの完了後に再試行してください (Please retry again after outstanding replication jobs are complete)」, または「DP ピアの解除に失敗しました：ピア レプリケーション CIP <IP アドレス> の接続キャッシュのクリーニングに失敗しました。レプリケーション ジョブ (#) は進行中です。未処理のレプリケーション ジョブの完了後に再試行してください (DP Peer forget failed: Failed to clean connection cache for peer replication CIP <IP address>. Replication jobs (#) in progress. Please retry again after outstanding replication jobs are complete.)」というメッセージが表示されることがあります。これらは、ポリシーのデータタッチが失敗したことを示しています。これらのメッセージが表示された場合は、NR/NFSのクリーンアップに遅延が重生じています。数分後に再試行してください。

## stcli dp schedule コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに `hxcli` コマンドを使用することをお勧めします。

データ保護スケジュール操作。

`stcli dp schedule [-h] {pause | resume | status}`

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>pause</code>	いずれか1つが必須。	レプリケーションを一時停止します。リモートクラスタへのレプリケーション スナップショット ビットの送信を停止します。

Option	必須またはオプション	説明
<b>resume</b>	セットのいずれかが必要。	レプリケーションを再開します。リモートクラスタへのレプリケーション スナップショット ビットの送信を再開します。
<b>status</b>	セットのいずれかが必要。	スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli dp schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp schedule pause コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

レプリケーションを一時停止します。既存のジョブの監視を停止し、リモートクラスタにレプリケーション スナップショット ビットを送信する新しいジョブの作成を停止します。

**stcli dp schedule pause [-h]**

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli dp schedule pause コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp schedule resume



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

レプリケーションを再開します。既存のジョブの監視を再開し、リモートクラスタにデータレプリケーション ビットを送信する新しいジョブの作成を再開します。

**stcli dp schedule resume [-h]**

**コマンド デフォルト** なし。

使用上のガイドライン `stcli dp schedule resume` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli dp schedule status



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

スケジューラの状態のクエリを実行します。これはデータベースの状態であり、スケジュールされたイベントの状態ではありません。スケジューラがフルであることを意味するものではありません。

### stcli dp schedule status [-h]

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン `stcli dp schedule status` コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli drnetwork cleanup コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

DR ネットワークを削除します。

### stcli drnetwork cleanup [-h]

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン DR ネットワークのクリーンアップ操作の一部として、`stcli drnetwork cleanup` コマンドを使用します。



(注) `drnetwork` クリーンアップ操作は、`dr` ペアリングまたは保護が設定されていない場合にサポートされます。設定のクリーンアップの詳細については、ご使用のリリースの「[仮想マシンのディザスタリカバリの管理](#)」のトピックを参照してください。

# stcli license コマンド

## stcli license コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

スマート ライセンス操作。

**stcli license [-h] {register | deregister | show | renew}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>register</b>	いずれか1つが必須。	ID トークンにスマート ライセンスを登録します。
<b>deregister</b>	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンスを登録解除します。
<b>show</b>	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンス オプションを表示します。概要、固有デバイス識別子 (UDI)、使用回数、技術サポートの詳細、登録と承認ステータス、およびインスタンス名が含まれます。
<b>renew</b>	セットのいずれかが必要。	スマート ライセンス操作を更新します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli license コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli license register コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ID トークンにスマート ライセンスを登録します。

**stcli license register [-h] --idtoken IDTOKEN [--force]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--idtoken IDTOKEN</b>	必須。	登録 ID トークン。
	<b>--force</b>	オプション。	クラスタがすでに登録されていても強制的に登録します。

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli license register コマンドでは、2つのダッシュ (-- ) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

```
# stcli license register--idtoken
ZmM2YTVhZjMtZTQxNi00...1LTE0ODg0NzkppYmF...A3OD0%3D%0...8caERE
```

**stcli license deregister コマンド**

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

スマートライセンスを登録解除します。

**stcli license deregister [-h]**

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli license deregister コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

**stcli license reservation install コマンド**

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ファイルパスを使用してスマートライセンスを予約します。

**stcli license reservation install [-h]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--file FILE_PATH</b>	オプション。	認証コードファイルのパス。

コマンドデフォルト なし

使用上のガイドライン stcli license reservtion install コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

```
# stcli license reservation install -h --file FILE_PATH
```

## stcli license show コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

選択したオプションに基づいてスマートライセンス情報を表示します。

### stcli license show

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>all</b>	オプション。	すべてのライセンス情報を表示します。
	<b>auth-status</b>	オプション。	スマートライセンス認証のステータスを表示します。
	<b>inst-name</b>	オプション。	クラスタ インスタンス名を表示します。
	<b>reg-status</b>	オプション。	スマートライセンス登録のステータスを表示します。
	<b>status</b>	オプション。	スマートライセンスの登録、承認、およびライセンスのステータスを表示します。
	<b>summary</b>	オプション。	スマートライセンスの概要を表示します。
	<b>tech-support</b>	オプション。	スマートライセンスのテクニカル サポートの詳細を表示します。
	<b>udi</b>	オプション。	スマートライセンスの固有デバイス識別子 (UDI) を表示します。
	<b>usage</b>	オプション。	スマートライセンスの使用数を表示します。



コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli license show コマンドでは、必須のオプションを指定し、先頭にダッシュ (-- ) は必要ありません。必要に応じて、[] で囲まれた引数を指定します。

ライセンスが登録されていない場合の例

```
# stcli license show status

Smart Licensing is ENABLED
Registration: Status: UNREGISTERED
Export-Controlled Functionality: Not Allowed
License Authorization: Status: EVAL MODE
Evaluation Period Remaining: 89 days, 23 hr, 57 min, 3 sec
Last Communication Attempt: NONE
```

ライセンスが登録されている場合の例

```
# stcli license show summary

Smart Licensing is ENABLED
Registration:
  Status: REGISTERED
  Smart Account: HyperFlex License Test
  Virtual Account: derek
  Last Renewal Attempt: None
  Next Renewal Attempt: Aug 1 17:47:06 2017 PDT
License Authorization:
  Status: AUTHORIZED
  Last Communication Attempt: SUCCEEDED
  Next Communication Attempt: Mar 4 16:47:11 2017 PST
License Usage:
  License                               Entitlement Tag
                                     Count           Status
```

---

```
Cisco Vendor String XYZ regid.2016-11.com,cisco.HX-SP-DP-S001,1.0_1c06...d45203
InCompliance
```

## stcli license renew コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

スマート ライセンス操作を更新します。

**stcli license renew [-h] {id | auth}**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
auth	いずれか1つが必須。	スマート ライセンス承認を更新します。

Option	必須またはオプション	説明
id	セットのいずれかが必要。	登録および登録 ID 証明書情報を更新します。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli license review コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli node コマンド

### stcli node コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ ノードで実行される操作。



(注) 互いに競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、ノードの追加とノードの削除を次のように同時に実行しないでください。stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1

**stcli nodes [-h] {discover | list | info | identify | disks | disk | add | remove | maintenanceMode}**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
add	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタにノードのセットを追加します。
discover	セットのいずれかが必要。	このノードと同じサブネットで検出可能なストレージクラスタ ノードをリストします。
disk	セットのいずれかが必要。	ノード内の物理ディスクを検索します。
disks	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ ノードの物理ディスクに関する情報を提供します。
identify	セットのいずれかが必要。	ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。

Option	必須またはオプション	説明
<b>info</b>	セットのいずれかが必要。	指定されたストレージクラスタノードに関する情報を提供します。
<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタ内のストレージクラスタノードをリストします。
<b>maintenanceMode</b>	セットのいずれかが必要。	メンテナンスモードを開始または終了します。
<b>remove</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラスタからノードを削除します。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli node コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli node discover コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

このノードと同じサブネットで検出可能なストレージクラスタノードをリストします。

### stcli node discover [-h]

**コマンドデフォルト** なし。他にパラメータはありません。

**使用上のガイドライン** ストレージクラスタに対して stcli node discover コマンドを実行します。

```
# stcli node discover

state:
storfsIp:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

host:
state:
about:
  serviceType:
  instanceUuid:
  name:
  locale:
```

```
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:

stctlvm:
  name:
  ip:
  guestHostname:
  storageNetworkIp:
  moid:
  role:
  entityRef:
    type:
    id: v
    name:
  version:
  passthrough:
  guestState:
  mgmtNetworkIp:

name:
ip:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

moid:
ipmiSettings:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

iovisor:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    fullName:
    productVersion:
  state:

bootTime:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
vMotionIp:
  addr:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
enclosureSerialNumber:
```

```
entityRef:
  type:
  id:
  name:
progress:
```

## stcli node list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ内のノードをリストします。

**stcli node list [-h] --summary**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--summary</b>	オプション。	概要のみを表示します。

### コマンドデフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli node list コマンドを実行し、[] で囲まれた引数を任意に含めることもできます。

```
# stcli node list
```

```
-----
upgradeState:
state:
storfsIp:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

pNode:
  about:
    serviceType:
    instanceUuid:
    name:
    locale:
    serialNumber:
    apiVersion:
    modelNumber:
    build:
    displayVersion:
    fullName:
    productVersion:

  retired:
  compression:
  ip:
```

```
dedup:
nsPrimary:
dataWriteThruEnabled:
state:
bootTime:
master:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
version:
lastModifiedTime:
name:

host:
state:
about:
  serviceType:
  instanceUuid:
  name:
  locale:
  serialNumber:
  apiVersion:
  modelNumber:
  build:
  fullName:
  productVersion:

stctlvm:
name:
storageClusterIp:
ip:
guestHostname:
mgmtClusterIp:
storageNetworkIp:
moid:
role:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
version:
passthrough:
guestState:
mgmtNetworkIp:

name:
ip:
  addr:
  stService:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

moid:
ipmiSettings:
  addr:
  stService:
  gateway:
  subnetMask:
  method:

ioVisor:
  about:
    serviceType:
```

```

        instanceUuid:
        name:
        locale:
        serialNumber:
        apiVersion:
        modelNumber:
        build:
        fullName:
        productVersion:
    state:
bootTime:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
vMotionIp:
  addr:
  vlanId:
  gateway:
  subnetMask:
  method:
enclosureSerialNumber:
entityRef:
  type:
  id:
  name:
upgradeVersion:
-----

```

## stcli node info コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定されたストレージクラスタ ノードに関する情報を提供します。

**stcli node info [-h] [--id ID | --ip NAME] [--summary]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>id</code> に表示されます。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--ip NAME</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。 IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>name</code> に表示されます。  --ip オプションは現在サポートされていません。
<b>--summary</b>	オプション。	概要のみを表示します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli node info` コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli node identify コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ノードを識別するノード ビーコンをオン/オフにします。



**重要** プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

**stcli node identify [-h] --ipmiIp IPMIIP [--interval INTERVAL] [--user USER]**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--ipmiIp IPMIIP</b>	必須	Ipmi IP アドレス。
<b>--interval INTERVAL</b>	任意	ビーコンをオンにするまでの秒数。指定しない場合、ビーコンはオフになります。
<b>---user USER</b>	任意	IPMI 管理ユーザー名  プロンプトが表示されたら、IPMI 管理パスワードを入力します。

**コマンド デフォルト** なし。



**使用上のガイドライン** stcli node identify コマンドでは、2つのダッシュ (-- )で始まる必須の引数を指定し、オプションで1個以上の {} で囲まれた位置指定引数を指定します。

## stcli node disks コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ ノードの物理ディスクに関する情報を提供します。

**stcli node disks [-h] [--id ID | --ip NAME]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの id に表示されます。
<b>--ip NAME</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの name に表示されます。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli node disks コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定します。

## stcli node disk コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ノード内の物理ディスクを検索します。

**stcli node disk [-h] [--id ID | --ip NAME] [--lighton | lightoff]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--id ID</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードの固有ID番号。IDは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>id</code> に表示されます。
	<b>--ip NAME</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラスタノードのIPアドレス。IPは、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>name</code> に表示されます。
	<b>--lighton</b>	オプション。	ディスク上のIDライトをオンにします。
	<b>--lightoff</b>	オプション。	ディスク上のIDライトをオフにします。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli node disk` コマンドでは、`{}` で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、`[]` で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli node add コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定されたノードをストレージクラスタに追加します。



- (注)
- プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。
  - `stcli node add` コマンドは、ストレージクラスタがオンラインで正常な状態であるときのみ使用してください。
  - 互いに競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、ノードの追加とノードの削除を次のように同時に実行しないでください。`stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1`

標準クラスタまたは `edge` クラスタ:

**stcli node add [-h] --node-ips NODEIPS [NODEIPS...] [--esx-username ESXUSERNAME] [--dryrun]**  
 ストレッチ クラスタ:

```
stcli node add [-h] --node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]:<Site Name> [--esx-username
ESXUSERNAME] [--dryrun]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--node-ips NODEIPS [NODEIPS ...]</b>	必須	ストレージクラスタに追加されるノードの ESXi 管理/vmk0 IP アドレス。
	<b>--dryrun</b>	任意	入力パラメータを検証するだけです。
	<b>Site Name</b>	ストレージクラスタに必須	ノードのサイト名。
	<b>--esx-username ESCUSERNAME</b>	任意	ESX 管理者のユーザ名。 プロンプトが表示されたら ESX 管理者パスワードを入力します。
	コントローラ VM ルートユーザ パスワード	任意	すべてのノードが同じパスワードである必要があります。 プロンプトが表示されたらコントローラ VM パスワードを入力します。

**コマンドデフォルト** なし。ノードの識別子は必須です。

**使用上のガイドライン** stcli node add コマンドでは、--node-ips を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。



- (注) ストレージクラスタに新しいノードを追加する場合に、ストレージクラスタが領域不足の状態であると、ストレージクラスタが自動的に再調整されます。そうでない場合、再調整が毎晩スケジュールされます。

## stcli node remove コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

**重要:** クラスタからノードを完全に削除するには、stcli node remove コマンドを使用します。後で同じノードを同じクラスタに再度追加する場合は、stcli node remove コマンドを実行しないでください。すでに属していたクラスタへのノードの追加はサポートされていません。



(注) HX 4.5(1a) 以降では、1 つのコンバージド ノードのみを削除できます。



(注) 互いに競合する操作を同時に実行しないでください。たとえば、ノードの追加とノードの削除を次のように同時に実行しないでください。stcli node add --node-ips NODEIPS remove --id-1 ID1



**警告** 論理アベイラビリティゾーン (LAZ) が設定された HyperFlex クラスタのノードを削除する前に、LAZ を無効にする必要があります。

LAZ を HyperFlex クラスタで使用する場合、LAZ を再有効化する前に、残りのノードの数を、[LAZ のガイドライン](#)と[考慮事項](#)に従って LAZ をサポートするバランスの取れた構成にする必要があります。

**stcli node remove [-h] [--id-1 ID1 | --ip-1 NAME1] [-f]**

表 3: 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id-1 ID1</b>	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの固有 ID 番号。ID は、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの id に表示されます。
<b>--ip-1 NAME1</b>	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタ ノードの IP アドレス。IP は、stcli cluster info コマンドを実行すると、stNode フィールドの name に表示されます。
<b>-f, --force</b>	オプション。	ストレージクラスタ ノードを強制的に削除します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli node remove コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

- ストレージクラスタからノードを削除する前に、DRS が有効になっていることを確認してください。DRS は、電源がオンの VM だけを移行します。

- ESXi ノードでは、ノードの削除を実行する前に、まずノードをメンテナンスモードにする必要があります。
- 5以下のクラスタサイズについては、メンテナンスウィンドウをスケジュールし、ノードの削除を実行する前にシャットダウンしてください。
- ネットワークに電源オフの VM がある場合には、それを手動でストレージクラスタに移行する必要があります。そうしないと、ノードを削除した後で、その VM にアクセスできなくなります。
- DRS が有効でない場合は、手動で VM を移行してください。
- ノードを削除するには、ストレージクラスタが正常である必要があります。また、ノードを削除しても使用可能なノード数が最小限の 3 つ未満にならないことが必要です (3 ノード未満になるとストレージクラスタが正常でなくなります)。

## stcli node maintenanceMode コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ内の ESX サーバを HX メンテナンスモードにします。

**stcli node maintenanceMode [-h] [--id ID | ip NAME] --mode MODE {enter | exit} [--timeout TIMEOUT]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--id ID</b>	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタノードの固有 ID 番号。ID は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>id</code> に表示されます。
<b>--ip NAME</b>	いずれか 1 つが必須。	ストレージクラスタノードの IP アドレス。IP は、 <code>stcli cluster info</code> コマンドを実行すると、 <code>stNode</code> フィールドの <code>name</code> に表示されます。
<b>--mode MODE</b>	必須	<code>enter</code> に設定すると HX メンテナンスモードを開始し、 <code>exit</code> に設定すると終了します。
<b>--timeout TIMEOUT</b>	オプション。	HX メンテナンスモードのタイムアウトを秒単位で設定します。

コマンド デフォルト なし。いずれか 1 つのオプションが必須で、`--mode` タイプも必須です

使用上のガイドライン stcli node maintenanceMode コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかと --mode タイプを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli security コマンド

### stcli security コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

セキュリティ関連の操作。

**stcli security [-h] {password | whitelist | ssh | encryption}**

#### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>password</b>	いずれか1つが必須。	ストレージセキュリティパスワード操作名前空間でサポートされているコマンド。
<b>ssh</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージセキュリティ ssh 名前空間でサポートされているコマンド。
<b>whitelist</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージセキュリティ ip ホホワイトリスト名前空間でサポートされているコマンド。
<b>encryption</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージセキュリティ暗号化名前空間でサポートされているコマンド。

コマンド デフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli security コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

### stcli security encryption コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

暗号化管理操作。

**stcli security encryption [-h] {ucsm-ro-user}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	ucsm-ro-user	必須です。	セキュリティ暗号化UCSMROユーザ名前空間でサポートされているコマンド。
コマンドデフォルト	なし。		
使用上のガイドライン	stcli security encryption コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。		

**stcli security encryption ucsm-ro-user コマンド**

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

暗号化UCSM読み取り専用（RO）ユーザ操作。

**stcli security encryption ucsm-ro-user [-h] {show | create | delete}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	create	いずれか1つが必須。	UCSM RO ユーザを作成します。
	delete	いずれか1つが必須。	UCSM RO ユーザを削除します。
	show	いずれか1つが必須。	UCSMROユーザクレデンシャルを表示します。
コマンドデフォルト	なし。		
使用上のガイドライン	stcli security encryption ucsm-ro-user コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。		

**stcli security encryption ucsm-ro-user create コマンド**

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

## stcli security encryption ucsn-ro-user delete コマンド

暗号化 UCSM 読み取り専用 (RO) ユーザ作成操作。



**重要** プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

**stcli security encryption ucsn-ro-user create [-h] --hostname HOSTNAME [--username USERNAME]**

## 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--hostname HOSTNAME	必須です。	UCSM ホスト名。
--username USERNAME	オプション。	UCSM ユーザ名。
		(注) ROユーザーの作成に使用する UCSM ユーザーは、LDAP または AD ユーザーではなく、ローカル UCSM ユーザーである必要があります。
		プロンプトが表示されたら、UCSM 管理レベルパスワードを入力します。

## コマンド デフォルト

ユーザ名のデフォルトは admin です。

## 使用上のガイドライン

stcli security encryption ucsn-ro-user create コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli security encryption ucsn-ro-user delete コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

暗号化 UCSM 読み取り専用 (RO) ユーザ削除操作。



**重要** プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。

**stcli security encryption ucsn-ro-user delete [-h] --hostname HOSTNAME [--username USERNAME]**

## 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
--hostname HOSTNAME	必須です。	UCSM ホスト名。



Option	必須またはオプション	説明
--username USERNAME	オプション。	UCSM ユーザ名。UCSM 管理者レベルのユーザである必要があります。 プロンプトが表示されたら、UCSM 管理レベルパスワードを入力します。

**コマンドデフォルト** ユーザ名のデフォルトは admin です。

**使用上のガイドライン** stcli security encryption ucsm-ro-user delete コマンドでは、2つのダッシュ (--) で始まる必須の引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli security encryption ucsm-ro-user show コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

暗号化 UCSM 読み取り専用 (RO) ユーザ表示。

**stcli security encryption ucsm-ro-user show [-h]**

**コマンドデフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli security encryption ucsm-ro-user show コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli security password コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

SSH キー管理操作。ストレージクラスタ内のすべてのコントローラ VM 用のユーザパスワードを設定します。



**重要** パスワードの入力を求められたら、入力します。

**stcli security password set [-h] [--user USER][--user diag]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>set</b>	必須。	ストレージクラスタ内のすべてのコントローラ VM 用のユーザパスワードを設定します。
	<b>--user USER</b>	オプション。	ユーザは、 <b>admin</b> または <b>root</b> である必要があります。指定しない場合、 <b>root</b> ユーザであると想定されます。
	<b>--user diag</b>	任意	トラブルシューティング用に設計され、昇格された権限を持つ、管理ユーザー アカウント 5.0(2a) で導入されたサポート

**コマンド デフォルト** デフォルトのコントローラ VM ユーザ名は `root`、パスワードは `Cisco123` です。

**使用上のガイドライン** `stcli security password set` コマンドでは、[] で囲まれたオプション引数を 1 つ指定できます。

## stcli security ssh コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに `hxcli` コマンドを使用することをお勧めします。

SSH キー管理操作。ストレージ クラスタ内の SSH キーを再同期します。

**stcli security ssh [-h] resync**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>resync</b>	必須。	ストレージクラスタ内の SSH キーを再同期します。

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** `stcli security ssh` コマンドは、`resync` 位置指定引数を指定して実行し、その際に [] で囲まれた引数を任意に含めることもできます。

## stcli security whitelist コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに `hxcli` コマンドを使用することをお勧めします。

IP テーブル ホワイト リストの操作。

**stcli security whitelist [-h] [list | add | remove | clear]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>add</b>	いずれか1つが必須。	IP テーブル ホワイト リストに IP アドレスを追加します。
	<b>clear</b>	セットのいずれかが必要。	IP テーブル ホワイト リストから IP アドレスをクリアします。
	<b>list</b>	セットのいずれかが必要。	IP テーブル ホワイト リストのエントリをリストします。
	<b>remove</b>	セットのいずれかが必要。	IP テーブル ホワイト リストから IP アドレスを削除します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli security whitelist コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli security whitelist list コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

IP テーブル内のホワイト リスト エントリのリストを表示します。

**stcli security whitelist list [-h]**

**コマンド デフォルト** なし。

**使用上のガイドライン** stcli security whitelist list コマンドでは、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

```
# stcli security whitelist list
10.1.1.2
10.1.2.3
```

## stcli security whitelist add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

IP テーブル ホワイトリストに IP アドレスを追加します。

**stcli security whitelist add [-h] --ips IP [IP ...]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--ips IP [IP ...]</b>	必須。	ホワイトリストに追加する IP アドレス。

### コマンド デフォルト

なし。IP アドレスは必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli security whitelist add コマンドでは、追加するサーバの IP アドレスを指定します。

```
# stcli security whitelist add --ips 10.1.2.3 10.3.4.5
```

## stcli security whitelist remove コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

IP テーブル ホワイトリストから指定された IP アドレスを削除します。

**stcli security whitelist remove [-h] --ips IP [IP ...]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--ips IP [IP ...]</b>	必須。	ホワイトリストから削除する IP アドレス。

### コマンド デフォルト

なし。

### 使用上のガイドライン

stcli security whitelist remove コマンドでは、ホワイトリストから削除する IP アドレスを指定します。

```
# stcli security whitelist remove --ips 10.1.2.3
```

## stcli security whitelist clear コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

IP テーブル ホワイトリストで IP アドレスのリスト全体を削除します。

**stcli security whitelist clear [-h]**

コマンドデフォルト なし。

使用上のガイドライン stcli security whitelist clear コマンドは、ホワイトリストから IP アドレスを削除するために実行します。

## stcli services コマンド

### stcli services コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

システム サービス関連の操作。

**stcli services [-h] [smtp | dns | ntp | asup | sch | remotesupport | timezone]**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>asup</b>	いずれか1つが必須。	自動サポート (ASUP) 設定名前空間でサポートされているコマンド。
<b>dns</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ DNS 設定名前空間でサポートされているコマンド。
<b>ntp</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ NTP 設定名前空間でサポートされているコマンド。
<b>remotesupport</b>	セットのいずれかが必要。	サポート リモート アクセス用にサポートされているコマンド。
<b>sch</b>	セットのいずれかが必要。	Smart Call Home 設定名前空間でサポートされているコマンド。

Option	必須またはオプション	説明
<b>smtp</b>	セットのいずれかが必要。	自動サポート設定名前空間用のストレージ SMTP でサポートされているコマンド。
<b>timezone</b>	セットのいずれかが必要。	タイムゾーン設定名前空間でサポートされているコマンド。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli services コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数を少なくとも1つ指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services smtp コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Data Platform の Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) 設定オプション。SMTP は、電子メール送信のインターネット標準です。SMTP サーバは、HX ASUP 機能とともに使用されます。

**stcli services smtp [-h] {show | set | clear}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>clear</b>	いずれか1つが必須。	ストレージクラス設定からすべての SMTP サーバを削除します。
<b>set</b>	セットのいずれかが必要。	すべての SMTP サーバをストレージクラス設定に追加します。
<b>show</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージクラス用に設定されたすべての SMTP サーバをリストします。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli services smtp コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services smtp show コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスが設定されている SMTP サーバを表示します。

### stcli services smtp show [-h]

**コマンドデフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services smtp show コマンドは、ストレージクラス設定のすべての SMTP サーバを表示するために実行します。

```
# stcli services smtp show
smtpServer: mailhost.eng.mycompany.com
fromAddress: admin@mycompany.com
```

## stcli services smtp set コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

SMTP サーバをストレージクラス設定に追加します。

### stcli services smtp set [-h] --smtp SMTPSERVER --fromaddress FROMADDRESS

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--smtp SMTPSERVER</b>	必須。	SMTP サーバのホスティング アドレス。
	<b>--fromaddress FROMADDRESS</b>	必須です。	自動サポート電子メールの送信元となる電子メール アドレス。SMTP サーバが受信者にメール通知を送信するために使用するアドレス。

**コマンドデフォルト** なし。サーバ情報は必須です。

**使用上のガイドライン** stcli services smtp set コマンドでは、必須パラメータを指定します。

SMTP サーバが設定されていることを確認するには、`/etc/msmtprc` ファイルを確認します。

```
# stcli services smtp set --smtp mailhost.eng.mycompany.com --fromAddress
smtpnotice@mycompany.com
```

## stcli services smtp clear コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラスタ設定からすべての SMTP サーバを削除します。

**stcli services smtp clear [-h]**

コマンド デフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services smtp clear コマンドは、ストレージクラスタ設定からすべての SMTP サーバを削除するために実行します。

SMTP サーバが削除されたことを確認するには、`/etc/msmtprc` ファイルが存在しないことを確認します。

```
# stcli services smtp clear
```

## stcli services dns コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ドメイン ネーム サーバ (DNS) サーバ設定操作。DNS は、インターネットまたはプライベートネットワークに接続されたコンピュータ、サービス、およびリソース向けの階層的な分散型ネーミングシステムです。

**stcli services dns [-h] {show | set | add | remove}**

構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>add</b>	いずれか1つが必須。	DNS サーバリストにサーバを追加します。
<b>set</b>	セットのいずれかが必要。	DNS サーバリストをこの新しいリストに置き換えます。



Option	必須またはオプション	説明
<b>show</b>	セットのいずれかが必要。	DNS サーバリストを表示します。
<b>remove</b>	セットのいずれかが必要。	DNS サーバリストからサーバを削除します。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli services dns コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services dns show コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

DNS サーバリストを表示します。

**stcli services dns show [-h]**

**コマンドデフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services dns show コマンドを実行します。

```
# stcli services dns show
10.64.1.8
10.64.1.9
```

## stcli services dns set コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

DNS サーバリストの既存のサーバリストを置き換えます。現在のリストを削除して既存のリストにサーバを追加するには、dns add を使用します。

**stcli services dns set [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER ...]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]</b>	必須。	現在の DNS サーバリストを置き換える少なくとも 1 つのサーバをリストします。

コマンド デフォルト なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

使用上のガイドライン stcli services dns set コマンドでは、少なくとも 1 つの DNS サーバ ID を指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。

```
# stcli services dns set --dns 10.60.1.1
```

## stcli services dns add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

DNS サーバリストにサーバを追加します。

```
stcli services dns add [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]</b>	必須。	DNS サーバリストに追加する 1 つ以上のサーバをリストします。

コマンド デフォルト なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

使用上のガイドライン stcli services dns add コマンドでは、少なくとも 1 つの DNS サーバ ID を指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。

```
# stcli services dns add --dns 10.60.8.9
```

## stcli services dns remove コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

DNS サーバリスト内の既存のサーバリストから 1 つ以上またはすべてのサーバを削除します。

```
stcli services dns remove [-h] --dns DNSSERVER [DNSSERVER...]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--dns DNSSERVER [DNSSERVER...]</b>	オプション。	現在の DNS サーバリストから削除する少なくとも 1 つのサーバをリストします。

**コマンドデフォルト** デフォルトでは、リストからすべての DNS サーバを削除します。

**使用上のガイドライン** stcli services dns remove コマンドでは、DNS サーバ ID をまったく指定しないか、1 つまたは複数指定します。サーバが複数ある場合はスペースで区切ります。

```
# stcli services dns remove --dns 10.60.6.7
```

## stcli services ntp コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Data Platform ネットワーク タイム プロトコル (NTP) 設定操作。

NTP はコンピュータ ネットワークでコンピュータの時刻を同期するために使用するプロトコルで、これを使用すると、複数のネットワーク デバイスからシステム ログやその他の時間固有のイベントを受信したときに、イベントを相互に関連付けることができようになります。NTP ではトランスポートプロトコルとして、ユーザデータグラムプロトコル (UDP) を使用します。すべての NTP 通信は UTC を使用します。

**stcli services ntp [-h] {add | set | show | remove}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>add</b>	いずれか 1 つが必須。	1 つ以上のサーバをストレージ NTP サーバリストに追加します。
	<b>set</b>	セットのいずれかが必要。	既存の NTP サーバリストを指定された DNS サーバリストに置き換えます。
	<b>show</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ NTP サーバリストを表示します。
	<b>remove</b>	セットのいずれかが必要。	ストレージ NTP サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli services ntp コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services ntp add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

1 つ以上のサーバをストレージ DNS サーバリストに追加します。

**stcli services ntp add [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]</b>	必須。	1 つ以上のサーバをストレージ NTP サーバリストに追加します。

### コマンド デフォルト

なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

### 使用上のガイドライン

stcli services ntp add コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。

```
# stcli services ntp add --ntp 136.158.1.0
```

## stcli services ntp set コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

既存の NTP サーバリストを新しいリストに置き換えます。既存のリストにサーバを追加するには、ntp add を使用します。

**stcli services ntp set [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]</b>	必須。	1 つ以上のサーバを指定して、現在のストレージ NTP サーバリストを置き換えます。

### コマンド デフォルト

なし。サービス ID は少なくとも 1 つ必要です。

**使用上のガイドライン** stcli services ntp set コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。

```
# stcli services ntp set --ntp 10.12.1.1
```

## stcli services ntp show コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージ DNS サーバリストを表示します。

**stcli services ntp show [-h]**

**コマンドデフォルト** 指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services ntp show コマンドを実行します。

```
# stcli services ntp show
0.company.pool.ntp.org
ntp.ubuntu.com
```

## stcli services ntp remove コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージ DNS サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。

**stcli services ntp remove [-h] --ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--ntp NTPSERVER [NTPSERVER ...]</b>	オプション。	ストレージ DNS サーバリストから 1 つ以上のサーバを削除します。

**コマンドデフォルト** デフォルトでは、ストレージ NTP サーバリストからすべての NTP サーバを削除します。

**使用上のガイドライン** stcli services ntp remove コマンドでは、少なくとも 1 つのサーバ ID を指定します。

```
# stcli services ntp remove --ntp 136.158.1.0
```

## stcli services asup コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

このセクションでは、Cisco 自動サポート (ASUP) コマンドをリストし、説明します。ASUP は、障害に関する情報をプロアクティブに取得し、即時に対応できるようにします。ASUP はシステムパフォーマンスおよびキャパシティを計画する際にも役立ちます。



(注) ASUP は、SMTP に依存しています。ASUP を有効にする前に、ネットワークに SMTP を設定していることを確認してください。

**stcli services asup [-h] {enable | disable | show | recipients}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>disable</b>	いずれか1つが必須。	ASUP を無効にします。
<b>enable</b>	セットのいずれかが必要。	ASUP を有効にします。
<b>recipients</b>	セットのいずれかが必要。	ASUP 受信者リスト設定をサポートするためのコマンド。
<b>show</b>	セットのいずれかが必要。	ASUP 設定を表示します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli services asup コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services asup enable コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX 自動サポート (ASUP) のサポートを有効にします。

**stcli services asup enable [-h]**

---

**コマンドデフォルト** 他にオプションはありません。

---

**使用上のガイドライン** 1. SMTP が設定されていることを確認します。stcli services asup smtp コマンドを参照してください。

2. stcli services asup enable コマンドを実行します。

```
# stcli services asup enable
```

## stcli services asup disable コマンド



---

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

---

HX 自動サポート (ASUP) のサポートを無効にします。

**stcli services asup disable [-h]**

---

**コマンドデフォルト** 他にオプションはありません。

---

**使用上のガイドライン** stcli services asup disable コマンドを実行します。

```
# stcli services asup disable
```

## stcli services asup show コマンド



---

(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

---

ASUP 設定を表示します。これには ASUP 受信者リストが含まれ、さらに ASUP が有効か無効かも示されます。

**stcli services asup show [-h]**

---

**コマンドデフォルト** 他に指定できるオプションはありません。

---

**使用上のガイドライン** stcli services asup show コマンドは、適用されている ASUP 設定をリストするために実行します。

この応答例では、ASUP が有効でなく、受信者リストに電子メールアドレスがないことを示しています。

```
# stcli services asup show
recipientList:
enabled: False
```

## stcli services asup recipients コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX 自動サポート (ASUP) 受信者設定操作。

**stcli services asup recipients [-h] {set | clear | add | remove}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>add</b>	いずれか1つが必須。	ASUP 受信者の既存のリストに ASUP 電子メール受信者を追加します。
<b>clear</b>	セットのいずれかが必要。	ASUP 受信者リスト全体を削除します。個々の受信者を削除するには、 <code>asup recipients remove</code> を使用します。
<b>remove</b>	セットのいずれかが必要。	既存のリストから指定された ASUP 電子メール受信者を削除します。
<b>set</b>	セットのいずれかが必要。	ASUP 受信者リストを設定します。以前に設定した受信者リストを置き換えます。既存のリストに受信者を追加するには、 <code>asup recipients add</code> を使用します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

### 使用上のガイドライン

stcli services asup recipients コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

- 既存の受信者リストからすべての受信者を削除するには、`clear` オプションを使用します。
- 受信者リストから特定の電子メールアドレスを削除するには、`remove` オプションを使用します。
- 受信者リストに新しい電子メールアドレスを追加するには、`add` オプションを使用します。
- 以前の受信者リストを新しい受信者リストに置き換えるには、`set` オプションを使用します。



## stcli services asup recipients set コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ASUP 電子メール受信者の既存のリストを指定された電子メールアドレスのリストに置き換えます。これは、既存のリストのすべての受信者を削除します。既存の受信者を削除するのではなく、既存のリストに受信者を追加するには、`asup recipients add` を使用します。

**stcli services asup recipients set [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]**

## 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]</b>	必須。	1つ以上の電子メールアドレスを追加して、ASUP 通知を受け取る受信者の既存のリストを置き換えます。電子メール受信者が複数存在する場合はスペースで区切ります。

## コマンドデフォルト

なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

## 使用上のガイドライン

stcli services asup recipients set コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients set --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
```

## stcli services asup recipients clear コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ASUP 受信者リスト全体を削除します。個々の受信者を削除するには、`asup recipients remove` を使用します。

**stcli services asup recipients clear [-h]**

## コマンドデフォルト

他にオプションはありません。

## 使用上のガイドライン

stcli services asup recipients clear コマンドは、受信者リストからすべての電子メールアドレスを削除するために実行します。

## stcli services asup recipients add コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ASUP 受信者の既存のリストに ASUP 電子メール受信者を追加します。既存のリストがこの時点で空である場合があります。このコマンドを使用すると、1人以上の受信者を追加できます。

**stcli services asup recipients add [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]</b>	必須。	ASUP 通知を受け取る受信者の現在のリストに 1 つ以上の電子メールアドレスを追加します。

**コマンド デフォルト** なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

**使用上のガイドライン** stcli services asup recipients add コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients add --recipients user1@mycompany.com user2@mycompany.com
```

## stcli services asup recipient remove コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ASUP 受信者の既存のリストから指定された個々の電子メール受信者を削除します。

**stcli services asup recipients remove [-h] --recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--recipients RECIPIENTS [RECIPIENTS ...]</b>	必須。	ASUP 通知を受け取る受信者の現在のリストから個々の電子メールアドレスを削除します。

**コマンド デフォルト** なし。少なくとも 1 人の受信者を入力してください。

**使用上のガイドライン** stcli services asup recipients remove コマンドでは、少なくとも 1 人の受信者を指定します。複数の受信者を指定する場合は、各電子メールアドレスをスペースで区切ります。

```
# stcli services asup recipients remove --recipients user1@mycompany.com
user2@mycompany.com
```

## stcli services sch コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

このセクションでは、Cisco Smart Call Home (SCH) コマンドをリストし、説明します。Smart Call Home は、HX ストレージクラスタに関する継続的なモニタ、プロアクティブな診断、アラート、サービス チケット通知、および推奨する改善策を指定の ASUP カスタマー コンタクトに提供します。また、必要に応じて、HTTPS やプロキシサーバを介して情報を提供することもできます。



(注) HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合、アクセスするにはプロキシサーバが必要です。

**stcli services** は、HTTPプロキシとHTTPSプロキシの両方をサポートします。

**stcli services sch [-h] {enable | disable | show | ping | clear | set}**

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>clear</b>	いずれか 1 つが必須。	Smart Call Home 設定をクリアします。
<b>disable</b>	いずれか 1 つが必須。	Smart Call Home を無効にします。
<b>enable</b>	いずれか 1 つが必須。	Smart Call Home を有効にします。
<b>ping</b>	いずれか 1 つが必須。	Smart Call Home エンドポイントに ping します。
<b>set</b>	いずれか 1 つが必須。	HTTPS アクセス用のプロキシサーバを含め、Smart Call Home を登録するためのコマンド
<b>show</b>	いずれか 1 つが必須。	Smart Call Home 設定を表示します。

**コマンド デフォルト** なし。いずれか 1 つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli services sch コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services sch enable コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Smart Call Home を有効にします。通知メールアドレスを設定するには、「stcli services sch set」を参照してください。

### stcli services sch enable [-h]

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services sch enable コマンドを実行します。

```
# stcli services sch enable
```

## stcli services sch disable コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Smart Call Home を無効にします。

### stcli services sch disable [-h]

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services sch disable コマンドを実行します。

```
# stcli services sch disable
```

## stcli services sch show コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

Smart Call Home 設定を表示します。これには設定した通知メールとプロキシの設定が含まれ、さらに Smart Call Home は有効か無効かが示されます。

#### stcli services sch show [-h]

**コマンドデフォルト** 他に指定できるオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services sch show コマンドは、適用されている Smart Call Home 設定をリストするために実行します。

この応答例では、Smart Call Home は有効になっているものの、電子メールアドレスとプロキシ設定は設定されていないことを示しています。

```
# stcli services sch show

proxyPort: 0
proxyUser:
enabled: True
proxyPassword:
cloudEnvironment: production
proxyUrl:
emailAddress:
portalUrl:
cloudAsupEndpoint: https://diag-hyperflex.io/
```

## stcli services sch ping コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

Smart Call Home エンドポイントに ping します。

#### stcli services sch ping [-h]

**コマンドデフォルト** オプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services sch ping コマンドを実行します。

次に例を示します。

```
# stcli services sch ping

ping to callhome endpoint was successful
```

## stcli services sch clear コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

ストレージクラス設定から Smart Call Home メールおよびプロキシ設定を削除します。

### stcli services sch clear [-h]

コマンド デフォルト 他にオプションはありません。

使用上のガイドライン stcli services sch clear コマンドは、ストレージクラス設定から Smart Call Home 通知メールおよびプロキシ設定を削除するために実行します。

```
# stcli services sch clear
```

## stcli services sch set コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

Smart Call Home サービスに必要な連絡先とプロキシ サーバを設定します。



重要 入力を求められたら password を入力してください。

stcli services は、HTTPプロキシとHTTPSプロキシの両方をサポートします。

```
stcli services sch set [-h] --email EMAILADDRESS [--proxy-url PROXYURL] [--proxy-port PROXYPORT] [--proxy-user PROXYUSER] [--portal-url PORTALURL] [--enable-proxy ENABLEPROXY]
```

### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
<b>--email EMAILADDRESS</b>	必須。	シスコ サポートから電子メールを受信するユーザのために、電子メールアドレスを追加します。配信リストまたはエイリアスを使用することをお勧めします。
<b>--enable-proxy ENABLEPROXY</b>	オプション。	プロキシの使用を明示的に有効または無効にします。

Option	必須またはオプション	説明
<code>--portal-url PORTALURL</code>	オプション。	代替の Smart Call Home ポータル URL を指定します（該当する場合）。
<code>--proxy-url PROXYURL</code>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します（該当する場合）。
<code>--proxy-port PROXYPORT</code>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシのポートを指定します（該当する場合）。
<code>--proxy-user PROXYUSER</code>	オプション。	HTTP または HTTPS プロキシの URL を指定します（該当する場合）。  HTTP または HTTPS プロキシのパスワードを指定します（メッセージが表示される場合）。

**コマンドデフォルト** なし。電子メールアドレスは必須です。デフォルトで、プロキシサーバは設定されません。

**使用上のガイドライン** `stcli services sch set` コマンドに電子メール受信者のアドレスを含めます。HX ストレージクラスタがファイアウォールの背後にある場合は、プロキシサーバを設定します。

Smart Call Home サービスを使用するには、このサービスが有効になっていることを確認します。`stcli services sch show` コマンドと `stcli services sch enable` コマンドを参照してください。

```
# stcli services sch set --email alias@mycompany.com
```

## stcli services remotesupport コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

このセクションでは、リモートサポートコマンドをリストし、説明します。このコマンドにより、Cisco サポートはユーザの HX ストレージクラスタにアクセスして、設定されている通知メールとプロキシの設定や、サポートによってトリガーされるサポートバンドルなど、クラスタ操作に関する情報を収集できます。

この設定はデフォルトでイネーブルになっています。

```
stcli services remotesupport [-h] {set | show}
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>set</b>	いずれか1つが必須。	リモートサポートを設定するコマンド。
	<b>show</b>	セットのいずれかが必要。	リモートサポート設定を表示します。
コマンドデフォルト	なし。いずれか1つのオプションが必須です。		
使用上のガイドライン	stcli services remotesupport コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。		

## stcli services remotesupport set コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

リモートサポートアクセスとアクションについて設定します。

```
stcli services remotesupport set [-h] --enable ENABLE_RS_VALUE [--enable-support-bundle-action ENABLE_RSB_VALUE]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--enable ENABLE_RS_VALUE</b>	必須。	リモートサポートを有効または無効にします。true または false のいずれかの値を指定します。
	<b>--enable-support-bundle-action ENABLE_RSB_VALUE</b>	オプション。	サポートバンドルアクションを有効または無効にします。true または false のいずれかを指定します。  TAC がサポートバンドルの構築をリモートからトリガーできるようにします。

コマンドデフォルト リモートサポートは、デフォルトで有効になっています。

使用上のガイドライン stcli services remotesupport set コマンドでは、必須パラメータを指定します。

```
# stcli services remotesupport set --enable false
```



## stcli services remotesupport show コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

リモートサポート設定を表示します。これには設定した通知メールとプロキシの設定が含まれ、さらにリモートサポートは有効か無効か、およびサポートによってトリガーされるサポートバンドルは有効か無効かが示されます。

### stcli services remotesupport show [-h]

#### コマンドデフォルト

他に指定できるオプションはありません。

#### 使用上のガイドライン

stcli services remotesupport show コマンドは、適用されている設定をリストするために実行します。

この応答例では、サポートによるリモートアクセスおよびリモートからトリガーされるサポートバンドルが有効になっていることを示しています。

```
# stcli services remotesupport show
```

```
enableSupportBundleAction: True
```

```
enabled: True
```

## stcli services timezone コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Data Platform タイムゾーン設定操作。

### stcli services timezone [-h] {show | set}

#### 構文の説明

Option	必須またはオプション	説明
set	いずれか1つが必須。	コントローラ VM のタイムゾーンを指定します。
show	セットのいずれかが必要。	現在設定されているシステム タイムゾーンを表示します。

#### コマンドデフォルト

なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli services timezone コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli services timezone show コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

コントローラ VM に現在設定されているシステム タイム ゾーンを表示します。

### stcli services timezone show [-h]

**コマンド デフォルト** 他にオプションはありません。

**使用上のガイドライン** stcli services timezone show コマンドは、現在設定されているタイム ゾーンを表示するために実行します。

```
# stcli services timezone show
America/New_York
```

## stcli services timezone set コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

コントローラ VM のタイム ゾーンを指定します。

### stcli services timezone set [-h] --timezone TIMEZONE

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>--timezone TIMEZONE</code>	必須。	<p>タイムゾーンの値を指定します。</p> <p>有効なタイムゾーン値のリストについては、次にアクセスしてください。</p> <p><a href="http://manpages.ubuntu.com/manpages/jaunty/ma%20n3/DateTime::TimeZone::Catalog.3pm.html">http://manpages.ubuntu.com/manpages/jaunty/ma%20n3/DateTime::TimeZone::Catalog.3pm.html</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タイムゾーンの値は、このリストからのみ（大文字と小文字を区別して）指定するようにしてください。たとえば、<code>Europe/Paris</code> や <code>America/Los_Angeles</code> とします。</li> <li>このリストにない値は無効です。</li> <li>無効なタイムゾーンを指定すると、GMT に戻されます。</li> </ul>

**コマンドデフォルト** なし。タイムゾーンは必須です。

**使用上のガイドライン** `stcli services timezone set` コマンドでは、有効なタイムゾーンを指定します。

```
# stcli services timezone set --timezone America/Los_Angeles
```

## stcli vm clone および snapshot コマンド

### stcli file clone コマンド



(注) `stcli` コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

指定されたファイルの HX クローンを作成します。

```
stcli file clone [-h] --name NAME --clone CLONE [--parentname PARENTNAME] [--replfirst]
[--repl] [--readonly] [--thick]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<code>--clone CLONE</code>	必須。	ファイルのクローンに割り当てる名前。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	必須です。	クローンを作成するファイルの名前。
<b>--parentname PARENTNAME</b>	オプション。	クローンを作成するファイルの親ファイルの名前。
<b>--replfirst</b>	オプション。	最初のレプリケーションファイルのクローン。
<b>--repl</b>	オプション。	レプリケーションファイルのクローン。
<b>--readonly</b>	オプション。	読み取り専用ファイルのクローン。
<b>--thick</b>	オプション。	シックファイルのクローン。

**コマンドデフォルト** なし。ファイル名とクローン名は必須です。

**使用上のガイドライン** stcli file clone コマンドでは、位置指定引数を指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli snapshot-schedule コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

このクラスタ内のすべてのオブジェクトに対するネイティブスナップショットスケジュールを有効または無効にします。

**stcli snapshot-schedule [-h] {--enable | --disable}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--enable</b>	いずれか1つが必須。	ネイティブスナップショットスケジュールを有効にします。
	<b>--disable</b>	セットのいずれかが必要。	ネイティブスナップショットスケジュールを無効にします。

**コマンドデフォルト** なし。いずれか1つのオプションが必須です。

**使用上のガイドライン** stcli snapshot-schedule コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

ネイティブスナップショットスケジュールを作成するには、HX Data Platform プラグインを使用します。このコマンドを使用すると、スケジュールを再構築することなく、スケジュールを無効にしてから再度有効にできます。

## stcli vm コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

HX Data Platform VM ReadyClone およびネイティブスナップショット操作。

**stcli vm [-h] {clone | snapshot}**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>clone</b>	いずれか1つが必須。	特定の VM の ReadyClone を指定された数だけ作成します。
	<b>snapshot</b>	セットのいずれかが必要。	特定の VM のネイティブスナップショットを作成します。

コマンドデフォルト なし。いずれか1つのオプションが必須です。

使用上のガイドライン stcli vm コマンドでは、{} で囲まれた位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli vm clone コマンド



- (注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

特定の VM の ReadyClone を指定された数だけ作成します。

**stcli vm clone [-h] [--id ID | --name NAME] --clone CLONE --number NUMBER [--poweron] [--custspec CUSTSPEC] [--guestname GUESTNAME] [--startnumber STARTNUMBER] [--increment INCREMENT] [--resourcepool-id RP-ID | --resourcepool-name RP-NAME]**

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--clone CLONE</b>	必須。	ReadyClone の名前。
	<b>--id ID</b>	セットのいずれかが必要。	ソース VM の ID。ID は、stcli cluster info コマンドでリストされます。

Option	必須またはオプション	説明
<b>--name NAME</b>	いずれか1つが必須。	ソース VM の名前。
<b>--number NUMBER</b>	必須です。	作成する ReadyClone の数。
<b>--custspec CUSTSPEC</b>	オプション。	ReadyClone のゲストカスタマイズ仕様。 vCenter のゲスト OS カスタマイズ機能を参照してください。
<b>--guestname GUESTNAME</b>	オプション。	ソース VM 名とは異なることがあるため、ReadyClone のゲスト名を指定します。  デフォルトは、ホストの DNS 名です。この名前を指定するには、その名前を DNS で解決できる必要があります。
<b>--increment INCREMENT</b>	オプション。	ReadyClone 名をインクリメントするために使用するサフィックス。  (注) 10000000000 以上の値でクローン番号を増分しないでください。
<b>--poweron</b>	オプション。	クローン作成後に、作成された ReadyClone の電源を入れます。
<b>--resourcepool-id RP-ID</b>	オプション。	ReadyClone を配置するリソース プールの ID。
<b>--resourcepool-name RP-NAME</b>	オプション。	ReadyClone を配置するリソース プールの名前。
<b>--startnumber STARTNUMBER</b>	オプション。	ReadyClone 名をインクリメントするためのサフィックスの開始番号。

コマンド デフォルト なし。一部のオプションは必須です。

使用上のガイドライン stcli vm clone コマンドでは、リストされている必須の位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。

## stcli vm snapshot コマンド



(注) stcli コマンドは非推奨になっています。代わりに [hxcli コマンド](#) を使用することをお勧めします。

特定の VM のネイティブ スナップショットを作成します。

```
stcli vm snapshot [-h] {id ID | --name NAME | --folder-id FOLDER-ID | --folder-name
FOLDER-NAME | --resourcepool-id RP-ID | --resourcepool-name RP-NAME} --snapshot
SNAPSHOT [--desc DESC] [--memory | --quiesce]
```

構文の説明	Option	必須またはオプション	説明
	<b>--snapshot SNAPSHOT</b>	必須。	ネイティブ スナップショットの名前。
	<b>-folder-id FOLDER-ID</b>	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するためのフォルダの ID。
	<b>--folder-name FOLDER-NAME</b>	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するためのフォルダの名前。
	<b>--id ID</b>	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するソース VM の ID。
	<b>--name NAME</b>	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するソース VM の名前。
	<b>--resourcepool-id RP-ID</b>	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するリソース プールの ID。
	<b>--resourcepool-name RP-NAME</b>	セットのいずれかが必要。	ネイティブ スナップショットを作成するために使用するリソース プールの名前。
	<b>--desc DESC</b>	オプション。	ネイティブ スナップショット説明。
	<b>--memory</b>	ペアとなるオプションの 1 つ。	ネイティブ スナップショット用のメモリ。
	<b>--quiesce</b>	ペアとなるオプションの 1 つ。	仮想マシンのファイル システムを休止します。

**コマンド デフォルト** なし。一部のオプションは必須です。

**使用上のガイドライン** stcli vm snapshot コマンドでは、リストされている必須の位置指定引数のいずれかを指定するほか、[] で囲まれた引数を任意に指定できます。





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。